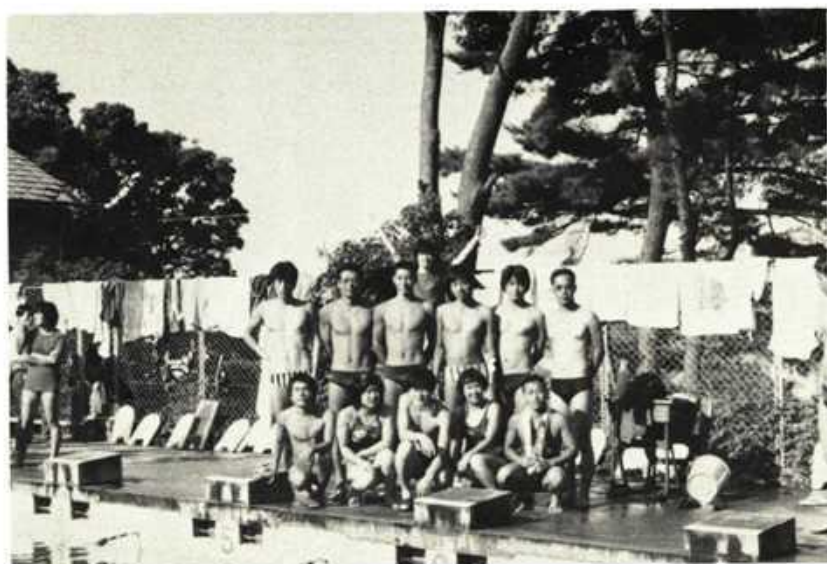




S 53. 2月19日(日) 凌雪会にて



今春卒業した4回生 11名

村	平	後	酒	塩	平
田	石	藤	井	浜	野
阿	栗	井	高	木	下
部	野	上	木		



近国体の優勝後、六甲台プールにて



月見の宴にて

## 目

## 次

「凌泳会」の歴史……………	会長 小山賢之助……………	2
「凌雪会」初参加記……………	学 18 小西 信次……………	10
三大学体育大会(旧三商大戦)観戦記……………	学 22 石井 義章……………	11
市大戦を観て……………	新 10 萩原 武……………	13
激 突……………	新 26 酒井 正人……………	14
雑 感……………	学 22 石井 義章……………	15
会員からの御便り……………		17
現役部員寄稿		
「私の思うこと」……………	主 将 慈幸 弘樹……………	26
関西国公立戦感想記……………	2 回 生 森鼻 隆夫……………	26
全国国公立戦観戦記……………	〃 森鼻 隆夫……………	27
関西インカレ観戦記……………	〃 上田 剛弘……………	28
近国体観戦記……………	〃 土井 和幸……………	29
スキー奮戦記……………	〃 荻谷 祐司……………	29
昭和五十二年度戦績……………		31
現役部員ベスト記録一覧……………		42
歴代十傑表……………		44

昭和五十二年度行事報告(春合宿から、凌雪会迄)……………	80
凌泳会会則……………	52
凌泳会役員名簿……………	55
凌泳会会員名簿……………	56
「商神」「応援歌」「水泳部部歌」楽譜、歌詞……………	78
編集後記……………	

## 「凌泳会」の歴史

会長 小山 賢之助

一はじめに

昨年古林先生追悼パーティーの席で、凌泳会の連中が雑談をしている時に、水泳部も五十年以上の歴史があるのに、現役の連中は勿論若いOBでもあまり古いことを知らないで、歴史でも書いてみてはどうかという話があった。旧商大はとに角旧高商になると生存者も少く今の間に書いておかないと、何も残らぬ心配がある、というので私が書いたかどうか、ということになった。水泳部の歴史といっても、ブルもない青谷の池の時代の話もあるから、日本歴史でいえば、神武天皇の様なもので、神話に近く歴史というのがおこがましいとも思われるので、想い出を中心に人物の話などを交ぜて、水泳の成績の方は、チームを中心に、タイム等は全部省略して、対抗戦、インターカレッジの成績等を主力として話をまとめることとした。

競泳で例えば百米を他人より速く泳いで一秒よい記録を作ったとして、それが何の為になるのであろうか、記録は破られる為に作られるという。たとえ世界記録といえども、破られる宿命にあるとするならば、それを作って何になるのか、何の意味があるか、などと聞き直されると、残念ながら私も明快に答えられない。ただ私に言

えることは水泳が好きだったから泳いだ、泳ぎによって我を忘れた、水泳部の対校マッチに全力を傾け、勝って喜び、敗けて泣き、そうしている内に、何時か卒業することになり、サラリーマンの悲哀を水泳大会の計時員となって、ブルの周囲をウロチョロすることによって慰めていたのが実情である。然るにその間水泳によって頑健な肉体を与えられ、水泳によって善き友を得、好き先輩同輩後輩に恵まれ、うるをいのないサラリーマン生活が、如何に豊かになったか、仮りに水泳というものに人格があり、魂があるなら私は、彼に満腔の感謝を捧げ度いと思う。

選手生活をいくら長くやるといっても、戦前の様に、労働基準法もない時に、社会人として選手生活をすることは不可能に近かった。私の選手生活は長い方が、十年しかなかった、社会人となってから実業団に二年出場、四十才以上に三年位出場したが、社会人となつてからの水泳とのつながりは主として、役員としてのそれであった。凌泳会の中にも、泳手として役員として、活躍した人材が沢山ある。今年も選手としての局面の歴史を書き、明年若し機会があれば、役員としての凌泳会員の歴史を凌泳会の歴史第二部として書くことと致し度い。

尚文中凡て敬称を略させて頂いた、あしからず御了承を賜わり度い。

凌泳会歴史

第一部、選手の巻。(水泳部史)

神戸高商水泳部が、学友会の独立した一運動部として正式に認められたのは大正十年のことである。(神戸大学凌霜七十年史による)。然し水泳部の眞の歴史は、白山源三郎(旧高商大正十年卒、十五回生)が大正六年京都二商から神戸高商に入学した時に始まる。

彼は幼少の時から、京都武徳会に属して、水泳に励み、師範の免状を得ていたが大正三年、浜寺における、大阪毎日新聞主催の、全国中等学校大会において、百米自由形に優勝している。当時は未だブルなどという、しゃれたものはなく、浜寺の海岸に脚立(キャタツ)を作り、スタートとターニングを板で作ったもので、素朴なものであったが、大毎の大会といえ、東京の東大主催の中学校大会と並んで權威のあるものであった。

彼は大正五年まだ京二商の生徒だった時に翌年東京芝浦で行われる極東大会(当時は俗に極東オリンピック大会と呼ばれた)の予選会に出場して百碼に二着、二百二十碼に一着となり、極東大会出場権を獲得した。翌年神戸高商に入学したが、正式に出場許可を願ひ出ても、許可されそうになかったので、学校をエスケープして、極東大会に臨んだ。ところが本大会で、百碼に三着に入賞し、新聞に報導されて、無断欠席が、ばれたのであるが、別にお咎めはなかったという。次いで大正七年鳴尾で行われた全国大会において、二百米に二着に入り、大正八年に行われる、マニラの極東大会の出場権を獲得したが、官立学校の学生は海外遠征は不可であるという文部省の方針で、彼はマニラには参加出来なかった。当時は航空機がなく、

海外遠征といえ、船便であり多くの日数を要するのであるが、それにしても、無断欠席といい、遠征禁止といい、当時の文部省のスポーツに対する無理解と、官立学校学生の特別扱いされているところが、面白いではないか、当時の私立は、今日の名門早慶といえども、入学が割合い簡単で、水泳の一流選手ならば、大体どの大学でも入学出来たのである。入学試験の難しい神戸高商に、当時の水泳の一流選手が入学したことは、特筆大書すべきことと考える。又大正八年には彼は鳴尾における帝水(帝国水友会)主催の全国大会において、50で二位、100、200に優勝している。大正九年には、アントワープにおいてオリンピック大会が開かれたが、日本からは内田正練、斎藤兼吉の二名が出場したが、予選で落選した。(一昨年モントリオール、オリンピックにおいて、日本の水泳は、六位以上の入賞皆無で、五十六年振りの不振といわれたが、この五十六年というのは大正九年即ち一九二〇年から一九七六年迄を計算したものである。)オリンピックで敗れたとはいえ、之が日本水泳に与えた影響は大いしたものでこの年には斎藤兼吉によって、自由形の日本記録が大幅に書き換えられた。尤も日本記録といっても、日本水連の出来たのはバリーのオリンピックの年で(一九二四年)当時は日本水連がなかったので正式の記録とは言い難い。この他大正八年には杉本伝の養成した茨木中学の連中が、台頭して、日本の競泳界は急速に進歩した。

之より神戸高商水泳部の歴史は、対校試合と、関西インターカレ

ツツに絞られる。

慶応義塾大学の学長であり、自身も大したスポーツマンであった小泉信三は、「対校試合に情熱を傾けたことのない学生は、学生生活の意義の大半を知らないものである」と言ったと伝えられるが、慶応にはスポーツ各種目に早稲田との対校試合があり、白熱の余り審判が、もめて、野球の対校戦が十四年間中止されたという様な話があるが、神戸は神戸なりに好敵手を求めて対校戦に熱を上げた。

神戸の運動部で一番強く又対抗戦で熱を上げたのは、テニスの対関西学院戦であった。

神戸高商水泳部でも好敵手を探していたが、茨木中学とやることになり、当時としては珍らしい同校の五十米プールへ遠征したが当時の茨木は日本最強のチームであって、コテンパンにやられてしまった。之では話にならないと、白羽の矢を立てたのが、大阪市立高商であった。

かくて大正九年、阪神両高商の水泳対校戦が、始められた。この当時は、まだ水泳チームの単位が、武徳会、浜水、帝水、という様に水練場単位に組織されて居り、学校水泳部というものは、いわば揺らん期にあって、水泳の対校戦はなかった、即ちこの対校試合は日本で最初の水泳の対校戦ということになる。その後水泳の早慶戦、一高、三高戦、等々数多く生れたが、今日迄残っているのは少く、この両高商戦はタイムはパツとしなくとも、実に存在価値の高いもの註、小泉信三全集に載っている由であるが私は之を読んでいない。

であることをここに強調しておき度い。

さて阪神高商第一回の成績であるが、白山は既に最盛期を過ぎていたとは言ふものの、フリーの200、400に優勝し、野田曾一（広島中）が50・100と100背、中村精一（天王寺中）が200平に優勝して26.5対15.5で神戸が勝った。然し、200リレーにおいて、両校殆んど同時にゴールになだれ込んで、雌雄決せず同着が宣せられた。これが0.5のある理由である。私はこの時、同席していないので、正確なことはわからないが、昭和三年の第九回大会でも同じ200リレーで同様なことが起っている。この時は私が頑張って、審判員の藤本秀松（大正十二年極東大会200平優勝者、明大出）今田四郎（早大出、クロール輸入者の内の一人）にご迷惑をおかけしたが同着に持ち込んだ、今の様な電気装置があれば千分の一でも差がつくのであるが、この頃は五分の一秒位の差でも、抗議を申し立てれば場合によっては同着が宣告されたのである。

大正十年には白山が卒業したので、神戸は九年に入学しながら、その年は水泳部に、はいつていなかった溝口を入部させるなど、補強を計ったが、大阪もさるもの、陸上競技の選手菊池を借り出して、50に二着を取るなど、健闘したので、神戸は20対22で惜敗した。

大正十一年は、大阪に、和歌山中学から小野田幸一が入学した。彼の泳法は、足が蛙足手が抜手という、いわゆるチンバ抜手であったが、クロールが出るまでは十分の偉力を發揮した。

彼は、大正八年の帝水全国大会で800米に優勝し、同年の大毎全国中

等大会の三千米責任リレー（前述の浜寺の海岸に100メートル間隔で脚立を作り、その間を往復する。二人でチームを組み、一人千五百米づつ泳ぐのであるが、コースロープなど勿論なく、波にあふられ乍ら真直ぐ泳ぐだけでも大変である。その上、自校の名譽がかかっている）で、責任リレーと称し、これに優勝する事は大変な名譽であった）に和中チームの一員として出泳し、優勝、続いて、大正九年の同大会でも同種目に優勝したという猛者で、ブレ、クロールの王者であった。然し、大正十年の上海の極東大会では、代表選手に選ばれたが、自由形ではなく、平泳で三着に入賞している。彼はまた、タフで疲れを知らぬ、といわれ、大毎の十哩速泳で、得意のチンバ抜手で、クロールの入谷唯一郎（茂木中）に敗れたが、美事三着に入賞している。

こんな猛者が大阪に入学したのだからたまらない、彼はフリーの100、200、400、跳伸、100背、200平と両リレーの八種目に出場して、一人で稼ぎまくった。結果は27対25の僅差で神戸は敗れた。両リレーは両校が一つづつ取って引き分けであったが、個人種目の得点は20対22で神戸の敗となるのであるが、大阪の22点の内12点は小野田一人の得点である。神戸は小野田に敗れたのであった。

之では対校戦の意味がない、一人強いのはいけば、その方が勝ちである。その後、一人の選手に出場制限をつけ、リレーを除き一人三種目となり、私共の頃には之が二種目に制限されることとなつて今日に及んでいる。

大正十二年には極東大会が大阪で行われ、築港に立派な五十メートルが竣工した。このプールで八月三十一日と九月一日の午前中に大毎主催の全国中等大会が開かれ、九月一日の午後と、二日の一日で、関西インターカレッジの第一回大会が開催されることとなつていた。大正十一年に関東インターカレッジ結成の動きがあり、関西でも大毎の後援のもとに、藤井正太郎を会長とし、大毎運動部の中村元一を名譽主事とする関西学連が結成されたのであった。

私は当時大阪天商の三年生で、三十一日の予選で落選し、一日の午前中等大会を観戦し、昼食をプールの近所のうどん屋の二階で食って居ったが、天井から吊してある電燈のコードがユラユラと動いている。どうも地震らしいというので、プールに駆けつけて見ると、プールサイドに居た人の話では、プールが揺れて、水がこぼれたといふことであつた、ところがこれがかの関東大震災の余波であつたのである。知らぬが仏というが、そんなことと露知らず、午後から予定通り、関西インターカレッジの予選が齊々行われた。

神戸は、この年、井関、大島、中村のトリオが入学し、十三年卒業の、溝口、山下は最終年ということで張り切つて居り、200、400の両リレーにベストタイムで入選し、個人種目でも、50に溝口、中村、100に大島、80に山下、200平に井関、三輪、100背に山下、溝口、が決勝に残り、神戸高商の優勝は誰しも疑わなかつた。ところがである、世の中には九十九%の可能性があつても、残りの1%が物を言うといふことがある。まさに関東大震災はこの1%であつた。午後四時

頃になると、東京の被害が、デマと共に、頻繁に入り始めた、主催者の毎日新聞は水泳どころではなくなった。鳩首協議の結果、九月二日の決勝は中止とされた、従って神戸高商の関西インターカレッジ優勝は、関東大地震の為にフツ飛んでしまった。爾来五十数年、神高商——神商大——神大の、関西インターカレッジ優勝はいまだに実現しない。

大正十二年には、地震の為に対大高商戦は中止されたと記録されている。然し私の個人的情報では、神戸があまり強過ぎるので、大阪の重い腰が上らなかつたということである。対校戦は大体六、七月頃迄に行われるのが慣習となっている、九月迄それが行われていなかった事実は私の右の観測の傍証となるであろう。

大正十三年には、神戸は溝口、山下、が卒業したが、大阪は小野田依然健在である上に田辺中学出身の岡本幸吉が入学した。彼は大正八年の大毎中等大会三千米責任リレー三着のメンバーであり、大正九年極東大会予選八百米に三着で、十年の上海極東大会の代表選手となっていた。大正十三年には彼は最盛期を過ぎていたとはいえず、200に二着、400に一着を占め、小野田も亦100三着、200一着、400二着と二人で十一点を稼ぎ、競泳では明かに神戸は敗けていた、ところが、その頃、かつてのボーリングの様に、バーツと流行して、スーと消えた、プランヂ、フォア、ディスクスタンスという種目があった、之は大正十一年から正式種目として採用されて居り、十一年には阪神互いに三点宛得点して五分であったが、この年は神戸が一、二、三、

をとって完勝し、全体として26対22で神戸は大阪に勝った、プランヂは跳伸と訳され、スタートの形で水中に跳び込み、手足を動かさず何米行けるかによって優劣を決めるのであるが、日本最高記録が十五米位の時に神戸の連中は十四米九十五を出して、インターカレッジでも強い方であった。この種目はこの年を最後に廃止されたが、こんなものがなければ、神戸の得点は20点となり、大阪の22点に敗けていたことになる。阪神高商戦で神戸が勝っているのが多いのであるが、私の知っている限り、好運によって神戸が勝った年が三年ある。この大正十三年が第一回で昭和四年五年と、実力の劣る神戸が何れも勝っている。

大正十三年は神戸の水泳部にとって好運の年であった、この年に上筒井に25米のプールが出来たのである。

このプール竣工を記念して、高商主催の関西中等大会が開かれたこの時茨木中学の参加はなかったが、京都の一中、同志社、大阪の天中、和歌山中学等当時の中学の一流泳手が参加して盛大に行われた。私は当時大阪天商の四年生であったが、東光、鎌本の諸君と之に参加した、天商の先輩の井関親之輔の勧誘があったからである。私はこの会で200平に三着に入賞したが、之が私が神戸高商を志願する原因となった。

で手前味噌になって恐縮であるが、私の出身学校の天王寺商業について説明しておき度い、天商はもと、大阪高商付属甲種科と称された、それは昔から大阪には市立の甲種商業があったが、之が、

神戸に高商が出来た頃、高商に昇格し、従来の甲種商業がそのまま残って、後年の天商となったのである。従って私が天商に在学した頃は、天商は大阪高商と同じ敷地にあった上に、天商の連中が一年に二十人、三十人と大阪高商に進学するので、まるで天商は大阪高商の予科みたいなものであった。天商では毎年夏になると、海岸に臨海学舎が出来て今の言葉でいえが水泳教室が開かれ、野島流の泳法と遠泳が行われ、一年生二年生は半強制的にここにつれて行かれた。水泳部の先輩も上級学校に行く人は大阪高商へ行って、私は大阪高商の水泳部の人を或る程度知る様になっていた。ところがここで突然変異が起った。三年先輩の井関が神戸に行き、神戸へ来いという、結局、神戸にはプールがあるが大阪にはないということ、一年上の東光、一年下の鍵本と神戸へ来てしまったのである。天商の野島流というのは蛙足が強く平泳に適していた、阪神対抗戦で、大正十五年から昭和六年迄、平泳で、神戸の完勝が六年続いているが、之は天商水泳部が主力となっている。神戸が大学となって商業出を取らなくなると、天商水泳部の後輩の前田信夫、瀬尾、熊谷等が大阪に行ったが、この天商チームは、阪神対抗戦で昭和八年から十年まで、平泳で大阪が神戸に完勝する主力を形成した。天商も今では女子ばかりになってしまったが、私は旧甲種商業に対しノスタルヂアを懐くのである。

大正十四年には、神戸も山下、溝口を失ったが大阪は小野田が卒業し岡本も姿を消して神戸が優勝した。

対東京商大戦はこの年に始ったが、神戸は20対22で敗れた。スコアを見ると接戦の様に見えるが、東京は一着になった泳手がフライイングでオミットされて居り、実力の差は歴然としていた。

この年のインターカレッジでは松山高校、京工芸等が強く、神戸は七位であった。尚尾上長三郎が飛込みで三位になっている。

大正十五年、井関、大島、中村が健在で、小山、草野が入学したので、可成りの好チームが出来た、大阪には32対10、名古屋に29対7で勝ったが、東京には10対24で破れた。当時の東京商大はナカナカの好チームで、関東学連のシード校であり、現在味の素の社長である渡辺文蔵、昭和二年の東西中等対抗の東軍の監督、上海極東大会の役員をした川口又男、困窮水連の名譽主事、副会長を歴任し水泳の功労だけで勲三等旭日章を貰った安部輝太郎、囲碁名人の高川格の兄の高川玄二等粒揃いの立派なものであって、神戸は歯が立たなかった。東京には昭和八年、昭和七年のロサンゼルスで金メダルを取った清川正二が入学し、日本学連のシード校となったが、この時は清川のワンマンチームで、大正十五年当時の方がチームとしては優れていたのではないかと思う。

さてこの年のインターカレッジでは200リレー、六位、800リレー五位、100自坂本五位、大島六位、200自、大島五位、200平、小山二位、井関六位で十九点を獲得し、四位に進出した。

オープンダイビングでは、尾上四位、東光五位であった。尤も参加者は五人であった。

昭和二年、

井関、大島、中村のトリオの卒業によって戦力の低下は避けられなかった。鍵本、熊野、香山が入学し何とかやれるとは思ったが、力足らず苦戦の連続であった。

之に対し、大阪は中長巨離に三村、背泳に黒山を入れ、チーム力は強化した。

阪神戦は20対22で神戸が敗れた、平泳は完勝したものの、両リレーを取られ、フリー100、200は坂本がとったが、400、800は大阪の三村背泳も大阪にとられたのはやむを得ないことであった。

東京には51対86で敗れた、この時から四等以下にも得点を与えることにしたのである。それでも名古屋には20対16で勝ち、名古屋を以て口惜しがらせた。

インターカレッジでは、200、800両リレーに五着、100自、坂本四着、平泳で、鍵本、熊野、小山がそれぞれ三、四、六位に就いて十五点を取り、四位を確保した。

昭和三年

この年は、神戸最大の受難の年であった。坂本、作田、松村の三人が卒業したのは当然として、最も困ったのは、主将を予定された東光武三が、本科三年に進まず、本二から東京商大に進学したことであった。残された我々は全く途方に暮れてしまった。ところが、先輩というものは有難いもので、当時、神戸海上に勤めて神戸に居た大島が、監督兼コーチとして、我々の合宿にも泊り込んでくれた

のであった。彼は香山孝一を、マンツーマンのコーチにより、優秀な長距離泳手に育て上げた。

それにしてもチーム力の低下は如何ともし難く、対校戦は和歌山高商に勝ったのみで、関大予科、名高商、東京商大、大阪高商に敗れ、インターカレッジにおいても、200リレー五位、800リレー六位、平泳に鍵本が三位に就いて十点を挙ぐるに止った。それでも順位は四位であった。得点が関学、同志社に集中したのである。

この年で特筆すべきは、鍵本、熊野、土肥の京大主催高専大会における活躍である。当時、この大会は、早大高等学院を始め、慶応、明の関東インターカレッジの強豪を始め、関学、同志社の高商部、東商大予科等、当時の一流選手が、参加して、レベルの高い大会として令名があった。この中に伍して、前記の神戸平泳のトリオは激しい予選を勝ち抜いて三人揃って決勝に残ったのである。決勝の結果は四五六着に終わったけれども、この大会で三人を決勝に送ることは至難の業で、之によって神戸は「関西のプレスト王国」と称せられるに至った。大阪高商なども之を見て、対校戦での平泳は神戸にかなわないと諦めることとなった。

東光はこの年東京商大に転学したが、水泳は全然やめて、勉学にいそしみ昭和五年在学中に難関の高文外交官試験に好成績で合格し（伝説によれば二番であったという）外務省にはいり、昭和十六年既に本省の欧亜局第三課長となり、前途を嘱目されたが、翌年官命により河波丸に乗り組んで南方に向うところを米国潜水艦に撃沈せ

られ、可惜、不帰の客となった。

又右のトリオの一人、土肥駒次郎は、大阪の市岡商業の出身で、作田、北条の後輩に当り、予科の頃は水泳部にあつて、平泳をやっていたが、本一の頃から、マルキストになり豚箱に放り込まれたりしたが、転向して卒業し、大連に渡つて、土肥商会を起し、非常に大きい仕事をやっていたが、敗戦後、毛沢東政権のもとにあり、北京で生活し、兩三年前に彼の地で亡くなつたと聞いている。凌泳会の変り種というべきであらうか。

之で昭和四年、大学昇格となるので今回は之で終るが、また機会があれば、第二部を書いて見たいと思う。

只、最後に、書き留めておきたいのは、前にも書いた様に、白山を別として、その後、大阪には極東大会選手が、入学しているのに神戸には一人も入学していない、神戸は新人勧誘をしなかつたのか、と言う人があるかも知れないが、井関、作田、東光、小山と続いたマネジャーは、兵庫県の男子中等の競泳大会を主催したただけではなく、西部中等大会、東西對抗等の役員をしていたから、その地位を利用して、毎年東西對抗代表選手を受験させたのであるが、所謂有名選手は一人も入学出来なかつた。大阪は之に反し、小野田、岡本の他昭和になつてからも、東西對抗選手であつた茨木中学の金森文太郎を獲得している。金森は昭和四年に大阪高商に入学しているが、彼は昭和二年には茨木中のチームが四百リレーの日本記録を作つた時のリレーメンバーであり、昭和二年の西部代表選手であつた。四

百リレーといへば、一人で百米を泳ぐのであるから、日本記録のメンバーの一人といへば、大したものである。然し、記録を調べて見ると、この金森が百米で昭和六年に神戸の山田常雄に、阪神対校戦でも、三商大戦でも勝てなかつたのであるから、大阪がボヤボヤしていたのか、神戸がスキップしていたのか、金森が神戸に入学していれば、もっと強くなつていたのではないかと思う。

選手引き抜きといへば、大正の終り頃、フリーの第一人者といわれた、早大の高石勝男が、神戸高商を受けて落第したという伝説がある。彼の従兄弟に、繁益繁治郎という人が居た、この人は凌泳会メンバーで大正十四年卒業（旧高商十九回生）であるが、長らく阪神電鉄の常務をした人で、数年前亡くなつたがこの人が本人には話さず、神戸に入学志願書を出したというのである。高石は彼よりも三つ位若かつたので従兄の勧めを断り切れず、神戸を受験したが、化学の点が、不足で借しくも落第したという。高石は、パリーのオリムピックで100と150に五位、アムステルダムでは100で銅メダル、800リレー二位のアンカーをつとめるなど、当時の水泳界の寵児であり、後年役員としては、水連会長にもなつた人である。

私は、之に対しては金森の場合とは異り、高石が神戸に入学していれば、恐らく一流泳手になれなかつたのではないかと思つている。この話は高石の生前私が本人に確かめたところ、落第したことは余り賞めたことではないし、敗けん気の強い人だけに肯定はしなかつたが、否定もしなかつたことをつけ加えておく。（終り）

## 凌雪会初参加記

学18回 小西信次

可成り以前から凌泳会有志が集り飲み語り且つ滑るといった会が続いていた由ですが、数年前凌雪会というものが発足したことを石井兄の「凌泳」の記事で知りました。小生はまだリフトのない頃から専ら転び乍ら降るといふスキーを続けて来ましたし、また毎年会社の有志の団体で連休に出かける世話人をしたりして居りましたので、水泳部0日で此の様な集まりがあるとは願っていません。その場で石井兄に電話で入会の申込みをさせていただきました。早速姫路の山口兄から開催御案内をいただきましたが、間の悪いことに年甲斐もなく足に肉離れを起して参加出来ずその後も開催日が第四土、日ということで何かと仕事の都合で出かけ難く、なかば凌雪会には縁がないかとあきらめかけて居りましたところ本年は第三土日に開催との御案内をいただき丁度会社も休みで漸く好機到来と喜んで次第です。

折角のことであれば金曜の夜に現地に着き土曜日の朝からスキーをはければと宿の所在等々山口兄に問合せましたところ御多忙中何回も電話をいただき、姫路にてわざわざ私達の席まで来ていただきましたが、実は申訳なきこと乍ら昭和四十一年転動で大阪へ戻ってからたしか二回程しか凌泳会総会に出席して居りませんので現役時

代共に泳いだ諸兄を除いては顔に殆んど記憶がなく、多分その時が山口兄と初対面であったと思います。心からさっぱりとして愉快な豪快にして且つ行き届いた方との印象を受けました。決して御世話になった為の御世辞ではありませんので為念。之は同行の舟守嬢も帰路車中でつくづくその様に云って居りましたし、又皆さんすばらしい人が揃っていると云ってくれましたのでうれしくなりました。前田先輩と萩原兄も乗り込んで居られましたので周りの席に一同集まりました。前田先輩にも久方ぶりに御目にかかりましたわけで御無沙汰をお詫びし早速に飲みかわすうちに江原駅に着き迎えの車とバスに分乗、宿に到着しました。直ちにビールで乾杯、一挙にわき出てくるよもやま話をするうちふと気が付けば午前二時になっていました。

出発前、参加を非常に楽しみにして居ましたところ、我社の社員で昭和四年生、大阪市大卒の木村君及び適令期でスキーが第一番の趣味という舟守嬢の二人が是非共つれて行ってくれとのこと御願いして同行致しましたが、この木村君は娘さんが三人あり夫々スキーをはじめた為自分一人疎外されてはと悲愴な決意で今シーズンはいじめたスキーというものを足に付けた人です。共に語り合っているうちに百米を水の中でも（雪の上でも？）何とか泳げることという凌雪会員資格条件に適格であるということで準会員に入会させていただきますのは愉快なことでした。ただ明日のスキーで対大阪市大戦をと申込まれたときは何とか来年以降にということで大笑いになり

ました。

翌朝山口兄から二米のヤマハのスキーをお借りして名色高原ゲレンデへ出かけました。リフトの行列も以外に短く雪のコンディションも最高で一日券を買って何とかもとを取ろうと話し合ったのですが、何と前田先輩の大した馬力と見事な滑降は驚威でした。前々から「凌泳」記載の凌雪会参加記を読ませていただきまして参加者の半分は失礼乍らロスキーかと想像していたところ諸兄の馬力と熟達さはさすが運動部出身と感心すると共に前述の木村君のいることを心強く思った次第です。

その夜も当日到着の諸兄を交え、前夜に倍する賑わいのうちにいつの間にか午前となり布団にもぐり込みましたが、何人かは六時にはスキーをかついで出かけた様で、九時ごろゲレンデに登った時、平岡兄でしたか、既に十二回もリフトに乗ってとばしたと聞き、一方小生は二晩続きの午前様で神鍋山の雪はアルコールの臭いがするのところがいますかと昨日山口兄にひやかされたのを出し出し乍ら帰途列車の都合で昼頃諸兄におわかれ致しました。雪の中で久方振りに凌泳会諸兄にお会い出来、平素の御無沙汰もお叱りなく心ゆくまで語り会えましたとき、瞬間昔プールサイドの様子を彷彿と思ひ出しました。

石井兄から凌雪会初参加の感想記を書いてくれないか、そうすれば又初参加者も出て来て盛会になればと帰阪後電話をいただきここに駄文を記した次第です。要するに凌雪会は語る、飲む、滑るの何れ

か一つでもすれば参加の目的は達成出来る様な会と感じました。ただ大学の試験の日程の都合上現役諸君が参加になれなかったのは残念でしたが多数家族の方が来られて居りましたのは誠になごやかで本當にうれしく思いました。

文末になりましたが皆様に御世話になりましたことを厚く御礼申し上げますと共に、来シーズンも是非共御会い出来る日を楽しみにして居ります。

### 三大学体育大会（旧三商大戦）

#### 観戦記

学 22 回 石 井 義 章

第十七回三大学体育大会水上競技（旧三商大戦を現在はこの呼ぶらしい——旧より通算四十五回——）は、七月三十一日、神戸大学六甲台プールに、一橋大学・大阪市立大学を迎えて、開催された。一週間前、このプールで、大阪市大との定期戦を行ったばかりである。その折、あまりにも、OBが少なかつたので、今回は、東京勢を迎える事でもあり、動員をかねばと、現役部員とも手分けして、阪神間在住のOBに、片っぱしから電話した、おかげで、今回は末記の通り、多数のなつかしい顔が、プールサイドに並んだ。しかし、大阪側は、先週あまりにもみじめな負け方をした為か、岸本

氏他二、三人で、いつも来られる岩橋会長の顔すら見えない。

定刻十時、神大水泳部長、山田教授より、開会の挨拶、続いて優勝杯返還、所が、何ともこの杯の哀れな姿、永年の風雪で、メッキがはげたのは仕方がないとしても、人形と蓋と本体と木台がばらばらになっている。これを積木の様に積上げて渡すのだから、渡す方も受取る方も文字通り壊れ物を取扱う感じ。これは早急に何とかしなければならぬ。修理再メッキ等、方法はあると思われるので、三大学で費用分担してでも、各部分の揃っている内に復元する必要がある。

さて、競技の方は、四百米混雑泳を皮切りに、試合開始、吾が神戸チームは、酒井、平石、慈幸、杉山、のオーダーで四分四二秒四で、一橋を一秒六押えて幸先よいスタートを切る。続く八百米自由型(杉山)、二百米平泳(平石)、二百米個人混泳(慈幸)、百米自由型(大林)、四百米自由型(杉山)、と何れも一位を独占、前週の大阪市大戦に続いて、又もや完全優勝かと思われたが、次の二百米蝶泳で惜しくも一橋の常盤君に一位を奪われ、続く二百米背泳(酒井)、八百米混泳(大林、慈幸、平石、杉山)で勝ったものの、完勝を逸した。得点合計は、神戸82点、一橋66点、市大32点の結果となった。

昼休みをはさんで、午後は水球の試合。大阪市大は、前週の恥を雪がんと、力戦したが、如何せん、泳力に於て開きのある神戸に一矢をむくいる事が出来ない。しかし、水球技術としては、神戸と五

分五分と見た。

一橋は、さすがに試合経験も豊富と見えて、ボールもよく手につき、垢抜けしたプレーをする。泳力に物云わせて、ガムシヤラにかき回す神戸勢を、巧みにかわして得点を重ねる。結局水球の部は神大12―市大4、神大4―一橋12、市大2―一橋13で、一橋・神大・市大の順となった。

五時頃、全競技無事終了、山田水泳部長より、優勝杯授与、引続いて、各校の健斗を賛える講評あり閉会となった。

この後、プールサイドで恒例のミーティング。各校OBの挨拶、キャプテンの挨拶の後新入部員の紹介、例によって、プールサイド対岸より、大音声で自己紹介、次々とプールに投げ込まれる。これらの諸君が何時の日か日本を背負って立つ様になった時、同じ釜のめしならぬ、プールの水を飲んだ仲間として「あの時の六甲台のプールの味は……」などと話合う様を想像すると愉快になって来る。

その内、ビールも回って宴酣、いつもならこれから古林先生の独壇場で、次々と替歌等飛出し、日の暮れるのも忘れる習わしたが、今年は先生のお姿を求むべくもない。せめて先生に作って頂いた水泳部歌を合唱しようと、神戸勢一同、声張上げて歌う。続いて、大阪、東京も負けじと部歌・応援歌の合唱、次第にメイトルも上って来た所で、後は若い者にまかせて、吾々はそっとプールを後にした。

以上

(当日来援のOB)

山田水泳部長・山本幸雄・岡田昌三・松田司郎・栄川泰介・萩原武・平岡昭朗・武政英幸・大橋進・藤森一男・川本典子・山口叔子・浜西美智子・石井義章 以上

追而

文中、優勝杯その他カップ類が傷んでいる事にふれましたが、その後、早速修理してくれました。九月の月見の宴では、市大戦・三商大戦で獲得したカップ、トロフィーを並べて、祝勝会として盛大に催しました。

## 市大戦を観て

新10 萩原 武

正式な名称は対大阪市立大学水上競技大会であるが現在我々は市大戦と呼びならわしている。由緒あるこの定期戦は今度で五十八回を数え、大正九年の第一回大会以来校名の変遷に応じて呼び名は幾度か変わったが、大会は両校関係者の努力と情熱で絶える事なく続いて来た。特に終戦直後の混乱期に大会を計画され挙行された諸先輩の御労苦に改めて敬意を表する。我国最古の水上競技定期戦として、それにふさわしい隆盛を図って行く責任が我々にはあると思う。古林先生が亡くなられて大きな支えを失ってしまった今こそ、OBの

結束と奮起の必要な時、山田副会長、石井幹事長他三名というのはいかにも寂しい。

競技の方は神戸の圧勝に終ったが、大学側の意気も今ひとつの感、シーズン中の競技スケジュールが両校とも過密のせい内容が盛り上りとレベルに欠ける。特にポロのオソマツきは眼に余る。

両校OBを支えた友情交換の場として一般の公式競技とは趣きを異にした市大戦らしい企画と位置づけを両校現役諸君でよく相談して欲しい。全般の低調さの中でここ数年の女子部員の実力はなかなかのものがある。三商大戦も含め、正式の競技種目として女子のレースを加える事を今年はずい検討実現させて欲しいと思う。

競技終了後のプールサイドでの懇親会はいつもながらの楽しいものであるが、両校新入部員の紹介はちょっと頂けないと感じたのは私だけであろうか。大学生らしい節度とスマートさが欲しいと思う。今年の夏もまた六甲プール、市大プールで泳の皆様と御会い出来るのを楽しみにしています。どうか万障繰り合わせて顔を出して下さいます様願いつつ市大戦観戦記とさせていただきます。

## 激 突！ 関西国公立戦

A 9 酒 井 正 人

今年の最大の目標である関西国公立が七月十六日、十七日に大阪府立大学プールにおいて開かれた。わが神大水泳部は、この日を目差し日夜練習に励んできたのだが、はたしてその結果は？

大会二日目神大は、最終レース 800m リレーの前までで、阪大と並んで45点、府大、京大について三位である。ここで阪大のリレーチームに勝つか負けるかですべてが決まるのだ、すなわち阪大に勝てば、念願の全国大会出場を果せるのである。

一点差ということでもそれこそみんな必死であった。ことさら、リレー出場者は、阪大のリレーメンバーと、わがチームとを不安な表情で比べていた。「よし、勝てるー」、だれかがそう叫んだ。

俺達はその一言を信じて召集へと向った。コースの反対側では部員総出の応援がすでに始まっている。「フレーフレー村田ノ」レースの幕は切って落とされた。阪大に差をつけ帰って来た村田さんに続いて主将の慧幸、独特な彼の泳ぎは阪大を寄せつけず、これも差をつけて帰って来た。「あゝ、俺の番だ」苦痛にあえぎながら俺は飛び込んだ。少し前、背泳決勝をすませたばかりの俺は疲れていた。

いや弁解はすまい。事実だけを認めよう。俺は無惨にも阪大の三番手、永田に抜かれたのだ。その差は五mぐらいいったらうか、はっ

きりとは覚えていない。力つきた俺は、アンカーの杉山に全てを託した。「彼ならやってくれる、きつと勝つ」そう心に念じて最後の応援。あと十m、あと五m、ラストスパートだ、激しく水しぶきが上がる。ゴールイン、やった、やった、勝ったぞ！ 阪大を見事抜き返して京大、府大について三位でゴールイン、感激のあまり、俺達は抱き合って喜んだ。他の部員もみんな同じ気持ちであったに違いない。

結局最終得点は、49対48でわずか一点差ではあるが阪大を破った。おまけに、この試合ではほとんどの部員がベストを出し感激はひとしおである。本当に今回の勝利は部員一丸となって勝ち取ったものである。総合順位、男子三位、女子三位、われわれは女子チームにも期待していたのだが両方とも三位で、仲よく全国大会へ、こんな嬉しい事はない。

この試合は、四年間の水泳生活の中でも一番思い出となる試合であろう。こんなにもみんなが同じ感激にひたり、同じ喜びにひたり、そして勝利を得る、すばらしいことだ。今日のこの喜びも、やはり日頃の苦しい練習、努力から生れるものなのだ、そして何よりも大切なのは途中でくじけず、最後までやり抜くという姿勢ではなからうか。今考えてみれば、俺は、水泳ということに打ち込んで来たから、四年間を充実して過ごしてきたのだと思う。退部しようと思っただ事も何度かあるが、今は、そうしないでよかったと思っただけ、後輩諸君、何事にもくじけず、最後までやり抜いてくれ、

そこから何かを得るはずだ、強い何かを。

## 雑 感

学22 石井 義章

十一月半のある日、主務の土井君より、本年度会費未納者の一覧表を送って来た。これは、五月の総会に於て、会費納入率引上の一の方策として、納期限を明確化すると共に、未納者には、九月頃、再度依頼し、それでも返事のない人は、各地方支部毎にリストアップし支部幹事を通じて、電話その他で、催促してもらおうと云う事になり、それに基いて云って来たものである。

私の所へ送られて来たのは、神戸地方在住者と云う事で、十名足らずであったが、見ると極く親しい人も居れば、全く思い出せない人もある。総会の折、敢て反対もしなかったが、いざこうやってみるとどうも云いにくい。相手が素直に受取ってくれば良いが、先輩風かしてと、変に受けとられればかえって逆効果になる。何と云っても、あまり楽しい仕事でもないもので、つい一日延しになり、早や、年も越してしまつた。他の支部の幹事の方々はどうされただろう。私同様、お困りになつたのではないかと思う。

さて、この会費負担について、私は近頃こんな事を考える様になつた。

会則によれば、会員は、会費納入を義務づけられている。しかし、この義務を怠つた場合の罰則は何とも決められていない。

申すまでもなく、凌泳会は、他の一般の会と違って、同じプールの水を飲み合つた、仲間意識の強い会である。会費を納めなかつたら、除名すると云う様な規定は、この会にはなじまない様な気がする。

しかし、一方会員も次第に増加し、現在、二百五十余人、今後も年々増加し、三百人、五百人となつた時、綺麗事だけでは済まされない様になって来る。

早い話が、今年度の例を見ても、「凌泳」の印刷だけでも一部千円以上かかっている。これに年間数度の行事案内の印刷、郵送料等を加えると、会員一人に要する費用は年額千五百円位になるのではないかと思われる。

そこで、私が思うのは、会則に「退会」の一項を加えては、と云う事である。今迄は、在学中水泳部員であつた者は、卒業後自動的に凌泳会員となり、本人の意志に関係なく、退会も除名もなく、終身、会員である。しかし、中には、学生時代もさして熱心に泳いだ訳でもなく、卒業後も大して懐しさも覚えず「凌泳」が来ても眉箱直行と云う方もあるのではないかと思う。そんな人にまで、費用と労力をかけた「凌泳」を送る事はないし、第一本人も、毎年毎年、会費も払わず、連絡だけ受けるのは心苦しかろう。この際退会して会員名簿から名前を削ってもらつた方がスッキリするのではないか

と思う。

と云って、決して退会を奨励するものではない。仲間が減る事は淋しい事だし、又、中には年額数千円の金も払ってない人が居るかもしれないぬ、私は、今払えなくても、水泳部に、或は、凌泳会に、多少とも関心を持っていてくれるなら、会員として残ってもらっていいと思う。反対に遊ぶ金はあるのに、僅かな会費を出し惜むと云うのが腹立たしい。

こんな事を云うと、会に魅力がないから、払う気がしないと云われるかもしれない。それなら、どうすれば、会が楽しい魅力あるものになるのか、共に力をかけて欲しい。凌泳会は、会員皆の物なのだし、一部の幹事だけではどうにもならない。

どうか凌泳会発展の為、皆様の忌憚のない御意見をお聞かせ頂くと共に、今年から、全員お忘れなく、会費を払って下さる様、お願い申し上げます。

## 会員からの御便り

○白山源三郎 (高15)

本年度、水泳部競技成績極めて優秀、お芽出度う、祝意を表します。

小生元気、時々泳いで楽しんで居る。

○天野 俊一 (高15)

天野俊一事昨年より脳血センにて長らく入院、最近やや快方に  
向い退院しましたが、自宅療養中にて再起不能故何卒悪しからず  
御了承下さい。

○溝口 卓郎 (高18)

寄る年波、泳ぐ元気はなくなった。本年は、近年にない好成绩  
お芽出度う。

○三井栄三郎 (高19)

御盛會を祈ります。  
プールで泳ぐ元気はなくなりましたが、広い静かな海でほっか  
りと浮いていたらさぞ愉快だろうと考える年頃になりました。

○木村 芳雄 (高20)

仲々良い成績でうれしいことです。私たちの頃は、青谷の池に  
25米のところに板を立てて泳いだものです。本科二年の時に25米  
プールが出来て気狂いのように水に浸っていたのがなつかしい思  
い出です。

○作田 耕三 (高22)

肺心腎肝の機能低下、動脈硬化が著しい。静養第一を宣告され  
ています。

○尾上長三郎 (高23)

元気で暮しています。

○三吉 吉郎 (高25)

三商大戦は色々懐かしい思い出が沢山あります。  
優勝お芽出とう。小生体調頗る良好です。今夏も日本海でもぐ  
つてみます。部員の皆様の御健康を祈ります。

○北条 貞夫 (高25)

晴耕雨読です。  
但し、ゴルフ場の穴掘り  
皆さんによろしく

○小山賢之助 (学1)

ゴルフ場の役員をやらせられているので、九月十五日老人の日はどうしてもそちらの方に出なければいけないので欠席の点お許し下さい。本年は成績がよくお目出度うございました、遊泳クラブでもよいけれども水泳をやるからには、目標を立てて猛練習するのが神大水泳部の存立要件です。凌泳誌はまだ出来ないのですから早く出して下さい。

○山田 常雄 (学1)

本年度は、中々優秀な成績でお目出度う。  
ビールで鋭気を養い来年も頑張ってください。

○草野 嘉一 (学1)

今年、八月五日から八日迄、伊豆下田市吉佐美海岸で連日海岸水泳を楽しみました。関東地方は、その翌日から二十日間に及ぶ長雨に祟られました。丁度その前に泳げたのは幸いでした。プールもいいけどやはり自然の中で泳ぐのが一番です。

○板野亀八郎 (学3)

何時も連絡をいただき、御配慮ありがとうございます。  
小生五年半前、心筋梗塞におそわれ、幸い極めて順調な快復過程を辿って年月迄参りましたが、その後は「一病息災」を心掛け、暑

さ寒さには特に留意し、他から見ると極めて我儘と思われそうなお生活を送っております。

○宮本 伯夫 (学3)

当日は宝塚 YOUT CLUB の凌霜会員のメンバーのコンペがありますので欠席致します。皆様に宜しくお伝え下さい。

今年の夏は非常に元気で YOUT をやりました。ドライバーも最近距離が伸びて二三〇ヤードは飛び大方十年前頃に復調しました。E.P. は十年前と同じく18、古稀の祝でも更に上げた位です。平均四二・三で廻っています。

○桑川 義男 (学4)

小生は、おかげさまで元気にしておりますが、同じ四回生の池谷俊一君が糖尿病で静養中とかで、いささか寂寥を感じています。

○野村 弘 (学5)

残念ながら欠席します。  
御盛會を祈ります。

小生サンデー毎日誌でのんびりと生活して居ます。

○小池 三郎 (学5)

大変ご無沙汰ばかりしております。本年は、仲々の好成绩でお

めでとうございました。

私は相変らず、三共子会衣高木薬品の代表取締役として勤務いたしております。

家は家内とお手伝いと三人暮し、非常に元気にしております。

欠席で相済みませんが、ご盛会を祈ります。

○大野 整 (学5)

お集まりのみなさんによりしくお伝え下さい。

○高橋 徹 (学7)

腎臓を病み、只今食事療養中にて何処にも出掛けられず残念です。

○太田 正元 (学7)

昨年三井金属を退任致し、三井東洋鋼板の関係会社、三洋金属に勤めて居ります。東京は両国橋のもと、浅草橋の三洋ビルに居ります。

今年の成績はかくかくたるものです。最近は若い時の水泳のおかげで健康であることを常に感謝しておる次第です。

十五日は、九州出張のため出席出来ません。皆様によりしく。

○満野 公介 (学8)

御便りによれば、大変な好成绩の由にて、御同慶至極に存じます。都合により月見の宴に参加出来ないのを残念に思います。

○大内 義仁 (学8)

広島市内に県営の五十m室内プールを見つけて減量と美容のため出かけています。チビ公の喚声に囲まれ乍ら、独泳するのは仲々良さものです。

月見の宴の盛会を祈ります。

○中村 市治 (学9)

諸兄の御健斗を心から祈ります。今回は、欠席しますが次回必ず上神したいと期しています。

○山口 宗樹 (学10)

本年度の好成绩おめでとう。

月見の宴は、残念乍ら欠席します。皆様に宜しくお伝え下さい。

○岡本 忠男 (学12)

十五日は敬老会が各地にあり且、中国展開会式がありますので残念乍ら欠席します。部員の方々と親しくするチャンスがなくて淋しく思っています。

参加者に宜しくお伝え下さい。

○尾上 信三 (学12)

今年の夏は天候に不況にもバテました。

山口八郎君の三十三回忌を五月十九日に、東京の成城クラブで行いました。山口先輩、守田謙三君とも会いました。皆元気でした。御一同様も健康にお努め頑張ってください。

○木村京一郎 (学12)

山国に移り住んで三十年、水泳にも縁遠くなって失礼ばかりしています。皆様によろしく。

○萩野 茂希 (学13)

身体のみ健康。ここ五年ほどは泳いだことが無い。今年は思っていた以上の成績で何より結構でした。この勢いで来年も又頑張ってください。

○古川富貴男 (学13)

小生、ここ六月より、東洋工業より勸願館マツダ(社長)に移りました。以後、連絡は下記の住所に願います。皆様によろしく。  
函館市末広町十八ー三一六〇二

○上田 宇一 (学13)

暑い今年の夏も終わりました。相変らず何かと忙しく失礼して

おります。出席の諸兄によろしく。

○熊野 泰己 (学13)

お陰様で元氣です。皆々さんによろしくお伝え下さい。

○石川 七郎 (学14)

優勝おめでとう。ますますの御健闘祈ります。「学」13回生、古川富貴男氏、函館マツダ社長に栄転されました。

○井川 俊夫 (学15)

八月十九日にて、名古屋支社次長より豪州会社の社長となり転勤致しました。新会社の住所を左記致します。

Marubeni Australia, Ltd.

P.O.Box R1000, Royal Exchange

Sydney, n.s.w. 2000, Australia

Mr. Toshio Ikawa

○三宅 林 (学16)

御無沙汰のみで申し訳ありません。御参加の皆さんにくれぐれもよろしく、相変らず元氣で過しております。

○武内信一郎 (学17)

先日、社内水泳大会があるので久方ぶりに水に入りましたが、25mで息切!! 運動不足を嘆いております。諸兄によろしく。

○山越 重義 (学17)

御承知の通り、繊維業界不況の真只中で繊維営業本部長を担当して四苦八苦致しております。皆様方とお会いできるのを楽しみにしておりますが、残念ながら今回も駄目。皆様方によろしく。

○佐脇 廣平 (学20)

ヤングカジュアル ヴァンヂャケット

男が選ぶ男のスーツ // ケント // ブランドをよろしく。

井川先輩がオーストラリアへ赴任されます。鈴木富夫とは東京でときどき会っています。今年の夏は遂に一度も水に入らず、秋冬には、キット神宮に通います。

○山本 幸雄 (学22)

当日は所用のため残念ながら欠席致します。相変らず多忙な日を送っていますが、お蔭様で元気です。ご出席の諸賢兄によろしく。

○石井 義章 (学22)

今年の現役諸君の活躍お目出とう御座います。天上の古林先生もさぞお喜びの事と思います。来年も更に頑張ってください。今夏は沖繩へ潜りに行ってきました。以前(七年前)と比べて大部汚れていました。行かれるなら早い方が良いでしょう。それに沖繩本島より離島の方が良い様です。

○小原 祥男 (新2)

東京チヨガーで頑張っております。先日佐藤君(新3)と久し振りに会いました。石井様始め諸兄によろしくお伝え下さい。

○堂本 直正 (新3)

四国路八年半の生活もいよいよ終り、十月より大阪勤務となります。久し振りに母校のプールも見ることができ、在関西の先輩、同輩、後輩の皆々様にもお目もじでできる際楽しみにしております。新居住宅未定ですが、当分は単身赴任とします。部の益々の御発展祈ります。

○村田 邦夫 (新3)

広島県の三原に来て以来二十二年になり皆様にすっかり御無沙汰しております。今年はいいい成績を残されおめでとうございます。来年も又大いに頑張ってください。

○富岡 道雄 (新4)

いつも欠席で失礼しています。高三の水泳部のセガレには負けるようにはなりましたが、夏にはまだ泳いでいます。現在はサントリーで人事の仕事をしています。来春卒業予定の四年生部員でサントリーに興味のある人は一度私を訪ねてください。

○松田 司郎 (新5)

上棟式と重りますので悪しからず諸先輩によろしく。

○岡見 晴児 (新6)

先輩諸氏はじめ皆様御無沙汰申し訳ありません。働き盛りと云えば恰好はいいのですが、酷使されておりまして……。週末には汗を出しストレス解消に努めて居ります。

○北村 敏 (新7)

最近では全く水に親しむ事がなくなりました。先日久し振りに泳ぎましたが、泳いだ後ものつけ根が痛くなり弱りました。皆さんにも久しくお会いしておりませんが、一応元気に過しております。現役各位の御活躍を期待します。

○上村 久治 (新8)

本年の東京は歴史的な長雨でとうとう泳ぐ機会もないままに九

月になってしまいました。

神大水泳部の本年の戦績は大変優秀な様で、おめでとうござい  
ます。

○酒井 孝栄 (新9)

今年六月に当地へ転任して参りました。住所変更手続方宣教御  
願ひ致します。(名簿参照)

尚今年の戦績は例年になく素晴らしいものです。皆様の一層の  
精進を期待しています。

○萩原 武 (新10)

経済環境が悪化の度を加える中であがいている自分は、丁度二  
十年前、伸びないタイムになかばあきらめを感じつつ練習の為の  
練習の如く不毛のあがきを続けていた自分にそっくりの様な気が  
します。

○藤岡 治男 (新11)

前略、本年度の戦績拝見しました。たいそう立派な成績おみこ  
とです。お祝い申し上げます。今年の成績におぼれず来年度を目  
指して下さい。小生は中学校に勤める関係、運動会の準備や水泳  
の最終試合(九月七日、十八)に向け毎日遅くまで頑張っていま  
す。練習の都合がつけば出席させていただきます。先

輩諸氏によろしく。

○武政 英幸 (新12)

今夏はコブ付き(女房十子供三人)で三年振りて土佐に帰り、海で泳ぎ潮風に肌をさらしてきました。近くの室内プールで時々汗を流しています。長男と一緒に出掛けるのですが、まだまだオタマジャクシで相手にとって不足です。御出席の皆様によろしくお伝え下さい。

○滝沢 章三 (新12)

遠隔地につき、申し訳ありませんが、欠席させて頂きます。卒業してしばらくはOJ会の練習にあえぎあえぎ参加しましたが、今では子供をつれてプールに行く程度で、トント御無沙汰です。今年はかなり戦績を修められた由、御発展を祈ります。

○鈴木 正弥 (新12)

四歳と六歳の二人の娘に水泳を教えています。最近水中にもぐれるようになったのでいよいよクロールを教え始めました。山崎嬢の金田スイミング・クラブに通わせていますが、なかなか盛況のようです。が一方ALL・JAPANの水準が相変わらず低調なのは寂しい限り。宴、御出席の諸氏によろしくお伝え下さい。

○前田 和秀 (新13)

東京へ出て、早くも四年余りがすぎました。運動環境が悪く、運動不足の為腹が出てきました。家の近く(横浜金沢区)に温水プールが完成したので、今後は水泳に精を出そうと思っております。御出席の諸氏によろしく。

○丸山 豊也 (新13)

好成绩おめでとうございます。皆様の努力の賜物でしょう。九月十五日は子供連れで参ります。

○手嶋 忠之 (新14)

今年の戦績はすばらしいものです。来年も頑張ってください。当方はこの夏よく泳ぎました。先日春日井市の水泳大会に出場しまして三十歳代の自由型で優勝いたしました。月見の宴には出席できませんが皆様に宜しくお伝え下さい。

○小越 信昭 (新14)

最近とても忙しく残念ながら出席できません。先輩諸氏によろしくお伝え下さい。

○木下 雅浩 (新14)

八月十五日付を以って、大阪本社へ転属となった。新部署は、

大阪市東区本町三―三、丸紅幡大阪総務部管財課、TEL二六六

一―二三五、住所 芦屋市川西町三番七号、丸紅幡芦屋荘C棟

一〇四。

○阿部 洋三 (新15)

職員組合専従も終了し、現在は土木技術部で仕事をしています。

九月五日に千代田区の大会に神田YMCAで出場し、一〇〇m  
バタに一分一〇秒九を出しました。最近泳法を変えたばかりなの  
であと少し練習すればもう少し早くなりそうです。

○宮部 高博 (新15)

昨夜(九月四日)新15回阿部洋三君よりTELあり、彼は今、

神田のYMCAでバタフライをやっているとの事。(百m一分

一〇秒前後の記録)

小生も今年は習志野市民大会三十〜四十才の部で優勝。来年は  
阿部君共々千葉県民大会に出場すべく練習を開始しました。現役  
部員諸兄の御活躍、心から嬉しく思います。来年も是非頑張って  
下さい。

○由佐 禎男 (新15)

九月三日〜二十二日まで海外出張のため、出席できませんので  
よろしく。

○以西 吉一 (新18)

仕事に追われて今夏はあまり泳ぐ機会がありませんでした。残  
念です。月見の宴も出席できるかどうかわかりませんが、仕事の  
都合がつけば出席させて頂きます。宜しく。

○岩切 博 (新19)

卒業後六年ぶりに泳いでいる。八百mで十四〜十五分かかって  
いる模様。衰えが目立つ。来年は十二分位にはカムバックしたい。

○正井 康子 (新22)

皆様頑張っておられるようですね。三年女子の有本さん、全国  
国公立での優勝おめでとう。男子の皆様も一部昇格おめでとうご  
ざいます。来年めざして体力を貯え、一人一人の方々が更にベス  
ト更新をめざしてがんばって下さい。

○家本 博一 (新22)

後援会活動の恒例の催しであるソフトボールの練習を後期に入っ  
てすぐ始めます。十月十九日(水)午後三時に全員(佐藤君も  
呼ばれたし)部室に集合されたし。主将以下幹部諸氏、よろしく  
お願いいたします。

○植西 勝 (新22)

神戸市の教員採用試験に無事合格し、二次試験が間近に迫っています。今は気分的にも解放され、近來にない、のんびりとした生活を送っています。月見の宴への出席は、次の機会にしたいと思えます。

○大曲 芳郎 (新23)

一部昇格おめでとう。我々(爪生・大曲・藤森)の時代と比べると奇跡的躍進と思える。でかした後輩 // 当地(日立)では水泳熱は低く、今年海で二度泳いだけである。六甲台の緑水が恋しいこの頃である。

○山口 叔子 (新24)

夏休みが終り、園児より教師の夏休みほけを痛感しております。運動会で忙しくなるのですが、皆様のお顔を見にうかがいます。

○山田 玲子 (新25)

相変わらずです。どっていうことありません。どってことあればいいんですが……………。

東京教員会誌

## 現役部員寄稿

### 『私の思うこと』

主将 慈 幸 弘 樹

去年は、やっと一部昇格が達成できその勢いで近畿国立大戦も優勝と快調に進んでいったのであるが、四回生が去った今私たちはより一層気持ちを引き締めなければならない。

水泳は個人競技といっても、大学スポーツという立場から見ると、団体競技としての色彩が強いと思われるし、クラブという限りには強いクラブでありつづけたいが、その為にも、部員一人一人の力が向上しチームとしての全員のレベルアップが望まれる。水泳経験者も初心者も自己ベストを目指して練習するにはちがいないけれど試合に於いて、決勝に残ったり入賞したりするほとんどの者が、経験者と言うのは、残念である。経験者と初心者の中にハンディ・キヤップがあるのは事実であるが、たとえ、大学から水泳を始めても百冊を六十秒で泳げるんだということを村田氏が示してくれているのだから、初心者でも意欲を持ってがんばれば、かなりの記録が出せると思う。

あらゆるスポーツにあてはまる事だが、練習する場合その要素に

は練習の量と質という問題があると思う。一口に質と言っても、短時間により多くの距離を泳ぐ能率のいい練習も質のいい練習と言えるかもしれない。しかし私が言いたいのは、個人的な練習に取り組む態度によって練習の質は決まってしまうということである。つまり、与えられた練習を漠然と消化するか、意欲的に消化していくかで、大きな差が生じてくるのである。私たちの場合、練習の量は時間的制約のため限度があるのだから、質を高めることによって練習効果を上げることができると思う。自分自身に対して、きびしい態度で練習に臨むことは記録向上の第一歩だと思われ、何よりも、そこにスポーツの良さがあると思う。

本年度は四回生が「君臨スレド統治セズ」の智恵さん一人だけに、我々神大水泳部員は智恵女王のもとに団結し、勝利目指して飽くなき戦いを続けていこうではないか。そして今年も勝利の美酒で乾杯といきましょう。

### 関西国公立戦感想記

2 回生 森 鼻 隆 夫

大阪府大プールで二日間にわたって行なわれたこの大会は、昭和五十二年度の数ある試合のうちでも印象に残っている試合のひとつである。とにかく男子、女子合わせて入賞が二十二もあるのだから

すごい。

さて何といっても得点源となったのは背泳・平泳・リレーで、100平で慈幸さん、平石さんと仲良く二、三位を独占し、200平で平石さんが疲れをみせない泳ぎで三位、100背で杉山さん、酒井さんがまた二、三位を独占、200背で酒井さんが悠々二位、そして400混継では京大、阪大に勝って二位、400、800リレーでは両方とも阪大に勝って三位であった。また花形100自で杉山さんが三位に入ったときは思わず力が入った。女子の方では男子にない一位が二つもある。まず100蝶で有本さんが二位以下を全然寄せつけず横綱の貫禄で一位、200個メで清水さんが二位と男子に勝るとも劣らない快挙である。こうして終盤で阪大と三位をせり合い、ついに微差で阪大を抜き、全国国公立へと進んでいったのである。

## 全国国公立戦観戦記

2 回 生 森 鼻 隆 夫

運悪くクジで負け観戦記を書くハメになった。もう大分前のことでほとんど憶えていないが何とか頑張ってみる。

さて関西国公立で阪大を蹴落として全国国公立大会という松舞台にのし上った神大だが、果たしてどこまで行けるかという不安がないわけではなかった。大会はあの近代的な神大とは雲泥の差のプー

ルで開かれた。しかし僕は回りを木々で囲まれた神大のプールの方が好きだ。但し便所はくさいし、プールの視界は非常に悪いが……。例のごとく試合開始前はびっしりとプールサイドに緊張感が張りつめている。見まわすと成程全国というだけあって東京や広島、鹿児島と遠いところをごくろうさんと思っっているうちに暮はおろされた。

さてそこから記憶に余りない。ただ我が神大チームの主力打者が次々と凡退におわるのを無念がっていたように思う。そして関東勢、特に筑波大が憎たらしい程ホームランをはなつのに頭にきていた僕は、関東のものになめられてたまるか、関西人のド根性見したれと自分のことは棚に上げておいて、神大はもちろん、京大、なにさらしとんや、府大、後ひと息やないか、などと関西対関東の対決とばかりにハメをはずしていた。しかし僕の声援にもかかわらず優勝は筑波大がさらっていった。さて我チームの成績は強打者杉山さんが100バックで三ベースヒットをはなち、女子の部で有本さんが200バタで優勝した。また高木さんが400個メで五位のしぶいヒットをはなした。後もう少し誰かいたと思ったのだが記録帳には誰もものっていないかった。しかしながら神大チームはみんな頑張っって他チームと同様に酒を飲んで家へ帰って泣きながら寝た。

## 関西インカレ観戦記

2 回生 上 田 剛 弘

今年の抱負であった「関西国公立三位入賞」を見事達成し、意気上がるかと思いきや、フリーの大黒柱村田先輩を欠き苦しい試合が予想されたのです。時は八月十二日、場所さつきプールで開催されました。小生はこういった大試合は生まれて初めての経験で非常に緊張してしまいました。それに日本水泳界のエース級の人達がずらりそろっているのも小生を非常に緊張させました。「こんなメチャクチャなフォームで恥しい」とさえ思いました。こんな小生に対し先輩方は場慣れした感じで気負うことなくスイスイと泳いでいる姿は、うらやましい限りでした。

試合が男子四百米個メ予選で始まりしました。この日の神大の成績はあまり良いとは言えず、百米背泳で酒井・杉山両先輩が二位三位になったのが、最も目立ちました。総合では四位にいましたが、三位の阪大とは大差をあげられていました。皆は「やっぱり」といった風で、見事過ぎる位予想的中しているのに驚きあきれ有様でした。帰路についても国公立戦のような必死に得点を予想するといふこともなく、あきらめムードでいっぱいでした。

ところが二日目に入ってあきらめの境地にたっしたのか、がぜん好成績が続出したのです。そして三位阪大との差も徐々に縮まって

いったのです。小生はこういう得点計算にあまり興味がなかったもので、レースも無事終えノンビリと一部のスバースターの泳ぎをため息をつきながら見ていたのです。すると先輩が小生に「たぶん負ける(阪大を抜けない)やろうから、お前等で八百米リレーを組め」との命令。痛む肩にサロメチールを塗ってレースに挑みました。小生が泳ぎ終って、山本が泳ぎ終る頃、意外にも神大が三位、阪大が五位だったのです。この結果に白けていた神大が急に色めきたったのです。先輩曰く、「このままいったら逆転できる。」とのこと、キツネにつままれたような気分になっていると、早くもアンカーの杉山先輩が飛び込んできました。依然として神大三位、阪大五位は変わらず、もう神大は自分のチームを応援しないで、四位の大工大を応援していました。そして神大三位で無事ゴール。四位には大工大が。この瞬間今年の抱負の二つ目「一部昇格」も達成したので。この夜のコンパは奇跡的な一部昇格を果しただけにそれはもう楽しかったです。同じ所へ後から阪大がやってきたのは神のいたずらなのでしょうが、けれども試合が終れば皆友達、小生も阪大側へ出向いて楽しく飲み語りあったのです。特に女子部員と……。それにしても酒井先輩の千鳥足、中尾先輩の演舞ならぬ珍舞は最高でした。けれども一部に昇格したのは嬉しいのですが、来年のことを思うと喜んでばかりはいられぬような気分にもなったのは事実です。最後に来年の抱負ならぬ標語を、

「成績おちても、一部はおちるな!!」

## 近国体観戦記

2 回生 土 井 和 幸

一九七七年度近畿地区国立大学体育大会は、八月十八日・二十九日に我が神戸大学のオンボプールで開かれた。(なんとかならんか?)。観客席はなんと土手、本部役員はプールの外であった。しかし大へん盛り上った試合となった。二十八日は朝から快晴で早くから各校の選手たちがプールに集合した。今シーズン最後の試合とあって我が神戸チームの部員は皆「やるぞ」という気持を持っていた。自分も得点をとることはできないが、ベストを出すようにがんばろうと思っていた。

午前中は予選であった。神戸大学は多くが順調に決勝に残った。上田が800 Free。で手をぬいたのか予選落ちしたのが少々いたかった。午後は決勝である。400混泳泳で、酒井・山本・慈幸・杉山が四分三十七秒六という神戸大新記録を出したのはすごい一言である。しかし一日目が終わった時点では阪大に一点差で負けていた。二日目これをどう逆転するかが見どころであった。二十九日、平石が強敵阪大の塩見を破り優勝した200平、上田が名譽ばんかいを計り堂々三位に入った400自由、山本が三位に入った200蝶、慈幸が腰いたにもめげずがんばり三位にとどまった200個混泳。酒井が段トツでゴールした200背が終った時点では依然として阪大64点、神戸63点と1点差で

あった。ああこれまでかと思っていると先輩たちは、「勝てる」と叫んでおられた。そうです。神は神戸大を見離さなかったのです。なんと100自に阪大が一人も出なかったのだ!!、神戸は杉山、中尾両スーパースターが出場して、この時神戸大の逆転優勝は決まったのであります。最後は800混泳、杉山、上田、山本、平石、自分から見れば雲の上のような人が、慈幸をリーダーとする我々のコールを受け、二位以下を50mも引きはなしてゴールしたのであった。この時我々は声もかれ、ひどい興奮状態に落ち入っていた。かくして神戸大は二度目の優勝は成し上げたのであった。

この日のコンパは楽しいものであった。後藤のリードで水泳部歌を全員で歌った時、水泳部に入ってよかったとつくづく思ったのでした。その後のことは覚えてません。(敬省略)

## スキー奮戦記

2 回生 藁 谷 祐 司

この冬、水泳部一年の青年A、青年B、著者Cは初泳ぎにも行かずにスキー旅行としゃれこんだ。青年Aは、中学時代に水泳を経験したが去年の夏はあまりバツとしなかった。青年B、著者Cはともにも水泳初心者である。この三人の青年達は二年後を夢みて二年の夏もがんばるであらう。

さて、三人は隊長Aのもとに、体育会主催のオープンスキーに参加したのである。AとCは全くの初心者、Bはボーゲン程度であったので、Bは五班、A、Cは八班、部屋は三人とも白樺であった。さて著者は、Aと共に小野名人のコーチのもとにスキーに、はげんだのであった。おもしろいことに全くの初心者であるAとCがスキーを持参し、ベテランBが貸スキーであった。ところがA、Cのスキーは、人の借り物であり、かつ非常に古いものであった。著者のスキー靴は、ひも靴であり、板の長さは、百九十cm、初心者Aの板の長さは、なっなんと百九十五cmであった。金持ちAは、これでは名人にはなれないと悟ったのか、三日目に貸スキーにかえたが、貧乏人Cは、百九十cmの板、ひも靴にしがみついていた為、AとCの技術差は広がるばかりであった。これに加えて、色魔Cは、女の子と自由滑走の時間いちゃついていたのに対し、陰けんAは、一人で孤独にダレルの練習にいそしんでいたの、これもAとCの技術差の重要な一因であろう。さてベテランBであるが、彼は五班で一人孤独にがんばっていたように思う。

講習を受けたのは三日半であったのだが、初心者A、Cはボーゲンすくい、陰けんAはシュテムボーゲンもすくいであった。もちろんベテランBはバラレルすくいであった。しかし彼はベテランに似あわず、しょうもない所で急にポテツ・ポテツとこけるのはびっくりした。

著者Cにとって最高におもしろかったのは、一月九日、つまり現

地解散後、みんな帰った後も丸一日残って、三人で力一杯滑った時間である。もう三日半もやると人は、こかしても自分はこけないという要領も得て、豪快に滑ったのだった。この日、さしもの貧乏学生CもニューベテランA、またの名を成り上がりベテランAに追いつこうと貸スキーを借りたのであった。最終日だけあって天気もまあまあで人手に少なく、ABCは初めて三人で一一緒にスキーを楽しんだ。運動神経熟達者Cは貸スキーにかえたおかげで、シュテムボーゲンをマスターし、バラレルらしきものもできるようになり、準運動神経熟達者Aとあまりかわらなくなった。戸狩スキー場のてっぺんから三人は、ころげながらも力一杯滑り、それは、それは楽しかった。ベテランB、Cは、ラビッドコースにも挑戦し、みごと征服したのである。もちろん著者Cは、三、四回ころげ回り、お尻ですべった部分もかなりあった。そうこう楽しんでるうちに日もかげり始めリフトも止まってしまったので、ベテランに変身した三人衆は戸狩スキー場をあとにして宿に帰ったのであった。

とにかくスキーは楽しい。来年も絶対行きたいと思えます。なお名前を公表しますと、青年A：森鼻隆夫君、青年B：土井和幸君、著者C：荻谷祐司でした。

## 昭和52年度成績

『京阪神三大学戦』 6月19日 於 京都大学プール

○100 Free

杉山和弘	1-01-2 1位
木戸功	1-04-8 4位
中尾稔	1-13-4 6位

○400 Free

村田邦夫	5-36-4 1位
土井祐二	6-27-6 6位

○800 Free

村田邦夫	12-00-8 2位
上田剛弘	13-29-3 6位

○200 Breast

平石康	2-53-4 1位
後藤信人	3-07-2 6位

○200 Fly

平石康	2-59-5 4位
-----	-----------

○200 Back

酒井正人	2-42-6 1位
杉山和弘	2-58-6 2位

○200 I.M.

慈幸弘樹	2-39-7 1位
酒井正人	2-53-5 3位

○400 I.M.

平石康	6-12-6 3位
慈幸弘樹	6-19-6 4位

○400 M.R.

(酒井・平石・慈幸・杉山) 4-51-5 1位

○800 Relay

(村田・慈幸・木戸・杉山) 10-05-1 3位

総 合

1位	神戸大学	74点
2位	大阪大学	69点
3位	京都大学	65点

『兵庫県学生選手権大会』 7月3日 於 甲南高校プール

〔男子〕但し、決勝記録のみ

○ 100 Free		
杉山和弘	1-00-2	1位
木戸功	1-04-7	6位
○ 200 Free		
村田邦夫	2-29-1	5位
○ 400 Free		
亀井尚之	6-10-8	6位
○ 800 Free		
亀井尚之	13-25-0	4位
○ 100 Breast		
慈幸弘樹	1-16-0	2位
後藤信人	1-19-7	3位
○ 200 Breast		
平石康	2-45-1	2位
後藤信人	(神大新) 2-55-0	3位
○ 100 Fly		
村田邦夫	1-13-2	4位
○ 100 Back		
杉山和弘	1-09-6	1位
酒井正人	(大会神、神大新) 1-13-5	4位
○ 200 Back		
酒井正人	2-38-4	3位
館谷彰司	3-27-1	5位
○ 200 I.M.		
平石康	2-39-0	2位
慈幸弘樹	2-39-5	3位
○ 400 M.R.		
(酒井・後藤・村田・杉山)	4-44-7	2位
(神大新)		
○ 800 Relay		
(慈幸・酒井・村田・杉山)	9-44-9	3位

総合

1位	甲南大学	98点
2位	神戸大学	66点
3位	関西学院大学	50点
	以上略	

〔女子〕

○ 100 Free		
橋爪啓子	1-31-1	4位
池上英子	2-12-5	6位
○ 200 Free		
有本智恵	3-09-0	4位
山本純子	3-17-3	5位
○ 400 Free		
山本純子	7-02-0	3位
○ 100 Breast		
橋爪啓子	1-56-6	4位
○ 100 Fly		
有本智恵	1-33-9	3位
○ 100 Back		
清水万里	1-32-9	3位
松本克江	1-52-9	4位
○ 200 Back		
松本克江	4-09-7	3位
○ 200 I.M.		
清水万里	3-15-6	3位
○ 400 M.R.		
(松本・清水・有本・橋爪)	6-38-9	2位
○ 400 Relay		
(清水・有本・橋爪・山本)	5-34-5	2位

総合

1位	武庫川女子大学	96点
2位	神戸大学	42点
3位	甲南大学	24点
	以下略	

『関西国公立大学大会』 7月16・17日 於 大阪府立大学プール

(男子)

○100 Free

杉山和弘 1-01-7 3位  
 村田邦夫 1-04-9  
 井上央 1-19-8

○200 Free

村田邦夫 2-24-9 5位  
 中尾稔 2-47-3  
 井上央 3-13-8

○400 Free

中尾稔 6-10-9  
 亀井尚之 6-02-0  
 上田剛弘 5-42-8

○1500 Free

亀井尚之 26-15-8  
 上田剛弘 24-48-0

○100 Breast

慈幸弘樹 1-18-4 2位  
 平石康 1-19-1 3位  
 後藤信人 1-23-5

○200 Breast

平石康 2-51-4 3位  
 後藤信人 3-02-8  
 芝暢彦 3-19-2

○100 Fly

油谷隆司 1-34-2  
 山本隆 1-16-4

○200 Fly

油谷隆司 4-00-3

○100 Back

杉山和弘 1-13-5 2位  
 酒井正人 1-13-8 3位  
 館谷彰司 1-38-8

○200 Back

酒井正人 2-40-6 2位  
 館谷彰司 3-36-5

○200 I.M.

慈幸弘樹 2-37-4 4位  
 木下修一 3-03-6  
 芝暢彦 3-28-6

○400 I.M.

久保田純生 8-29-4

○400 M.R.

(酒井・平石・杉山・村田) 4-43-9 2位

○800 Relay

(村田・慈幸・酒井・杉山) 9-53-0 2位

総合

1位 大阪府立大学

2位 京都大学

3位 神戸大学

4位 大阪大学

5位 奈良教育大学

6位 滋賀大学

以下略

『関西国公立大学大会』 7月16・17日 於 大阪府立大学プール

(女子)

○ 100 Free

坂井久子 1-48-8

池上英子 1-57-5

橋爪啓子 1-34-8

○ 200 Free

有本智恵 3-03-7 6位

山本純子 3-15-3

栗野正子 3-49-2

○ 400 Free

山本純子 6-52-9 3位

○ 100 Breast

橋爪啓子 1-54-4 5位

栗野正子 2-02-6

○ 200 Breast

坂井久子 4-32-7 4位

○ 100 Fly

有本智恵 1-28-8 1位

○ 100 Back

松本克江 1-55-5 5位

池上英子 2-44-0 6位

○ 200 Back

清水万里 3-13-6 2位

松本克江 4-09-3

○ 200 I.M.

清水万里 3-12-9 1位

高木史子 3-27-3 6位

○ 400 I.M.

高木史子 7-37-5 1位

○ 400 M.R.

(清水・高木・有本・山本) 6-15-8 3位

○ 200 Relay

(有本・栗野・高木・清水) 2-22-4 4位

○ 400 Relay

(有本・高木・山本・清水) 5-35-7 3位

総合

1位 大阪教育大学

2位 奈良教育大学

3位 神戸大学

以下略

『第58回対市大戦』 7月24日 於 六甲台プール

〔競泳の部〕

○100 Free

中尾 稔	1-08-5	1位
久保田 純生	1-21-4	3位
土井 和幸	1-27-2	5位

○400 Free

杉山 和弘	5-22-5	1位
上田 剛弘	5-53-6	3位
亀井 尚之	6-13-8	5位

○800 Free

杉山 和弘	11-15-9	1位
上田 剛弘	12-32-1	3位
亀井 尚之	12-56-1	4位

○200 Breast

後藤 信人	3-00-1	1位
木下 修一	3-03-9	2位
森鼻 隆夫	3-30-0	6位

○200 Fly

慈幸 弘樹	3-01-7	1位
油谷 隆司	3-57-8	3位
阿部 誠次	5-02-8	6位

○200 Back

酒井 正人	2-43-2	1位
木下 修一	3-20-9	2位
館谷 彰司	3-24-0	3位

○200 I.M.

慈幸 弘樹	2-43-4	1位
酒井 正人	2-44-6	2位
芝 暢彦	3-18-7	4位

○400 M.R.

(酒井・後藤・慈幸・杉山) 4-58-9 1位

○800 Relay

(中尾・上田・慈幸・杉山) 10-40-5 1位

競泳の部 優勝

〔水球の部〕

神大 7 - 4 市大

水球の部 優勝

『旧三商大水上競技大会』 7月31日 於 六甲台プール

〔競泳の部〕

○ 100 Free

大林良和 1-04-0 1位  
中尾稔 1-08-7 5位

○ 400 Free

杉山和弘 5-08-2 1位  
亀井尚之 5-57-2 6位

○ 800 Free

杉山和弘 10-46-1 1位  
上田剛弘 12-00-6 5位

○ 200 Breast

平石康 2-48-0 1位  
後藤信人 2-57-1 3位

○ 200 Fly

慈幸弘樹 3-00-9 2位  
平石康 3-04-6 3位

○ 200 Back

酒井正人 2-38-1 1位  
木下修一 3-14-0 4位

○ 200 I.M.

慈幸弘樹 2-37-4 1位  
酒井正人 2-41-9 2位

○ 400 M.R.

(酒井・平石・慈幸・杉山) 4-42-4 1位

○ 800 Relay

(大林・慈幸・平石・杉山) 9-36-2 1位

競泳順位

優勝 神戸大学 82点  
2位 一橋大学 66点  
3位 大阪市立大学 32点

〔水球の部〕

神大 4 - 12 一橋  
神大 12 - 4 市大

水球順位

1位 一橋大学  
2位 神戸大学  
3位 大阪市立大学

『全国国公立水上競技大会』 8月6・7日

〔男子〕

○ 100 Free		
中尾 稔	1-11-0	
土井 和幸	1-23-0	
○ 200 Free		
中尾 稔	2-45-7	
○ 400 Free		
上田 剛弘	5-42-8	
亀井 尚之	6-00-2	
○ 1500 Free		
上田 剛弘	24-25-8	
亀井 尚之	25-19-0	
○ 100 Breast		
後藤 信人	1-24-0	
平石 康	1-20-1	
慈幸 弘樹	1-18-3	
○ 200 Breast		
平石 康	2-53-1	
後藤 信人	3-05-8	
慈幸 弘樹	2-52-9	
○ 100 Back		
館谷 彰司	1-32-5	
酒井 正人	1-13-6	
杉山 和弘	1-10-6	3位
○ 200 Back		
酒井 正人	2-41-6	
杉山 和弘	2-40-1	6位
館谷 彰司	3-20-1	
○ 200 I.M.		
芝 暢彦	3-13-0	
木下 修一	3-09-5	
○ 400 I.M.		
芝 暢彦	7-12-6	

○ 400 M.R.	
(酒井・平石・慈幸・杉山)	4-49-2
○ 400 Relay	
(酒井・平石・慈幸・杉山)	4-19-5
○ 800 Relay	
(酒井・平石・慈幸・杉山)	10-31-6

〔女子〕

○ 100 Free		
粟野 正子	1-32-4	
○ 200 Free		
山本 純子	3-15-8	
○ 400 Free		
山本 純子	6-55-7	
橋爪 啓子	7-23-2	
○ 100 Breast		
坂井 久子	2-08-7	
橋爪 啓子	1-51-6	
○ 200 Breast		
坂井 久子	4-26-0	
清水 万里	3-33-1	
○ 100 Fly		
有本 智恵	1-29-6	4位
○ 200 Fly		
有本 智恵	3-26-9	1位
○ 100 Back		
松本 克江	1-54-7	
○ 200 Back		
清水 万理	3-13-2	
○ 400 I.M.		
高木 史子	7-16-4	5位
○ 400 M.R.		
(清水・高木・有本・山本)	6-19-1	
○ 200 Relay		
(粟野・有本・高木・清水)	2-21-6	
○ 400 Relay		
(清水・有本・高木・山本)	5-32-7	

『関西学生選手権大会』 8月12・13日 於 八幡町営さつき公園プール

○ 100 Free

杉山和弘 1-02-6 2位

○ 200 Free

中尾 稔 2-42-3

○ 400 Free

山本 隆 5-43-6

上田剛弘 5-27-7 4位

○ 800 Free

上田剛弘 11-46-5

○ 100 Breast

慈幸弘樹 1-19-1 3位

平石 康 1-20-0

○ 200 Breast

平石 康 2-53-4 3位

○ 100 Fly

油谷隆司 1-36-8

山本 隆 1-16-2

○ 200 Fly

亀井尚之 4-42-1

○ 100 Back

酒井正人 1-14-9 3位

杉山和弘 1-12-5 2位

○ 200 Back

酒井正人 2-44-0 2位

館谷彰司 3-24-8

○ 200 I.M.

慈幸弘樹 2-37-9 2位

木下修一 3-04-4

○ 400 M.R.

(酒井・平石・慈幸・杉山) 4-49-2 3位

○ 800 Relay

(上田・慈幸・山本・杉山) 9-54-3 3位

『関西女子学生選手権大会』 8月12・13日 於 八幡町営さつき公園プール

○100 Free

池上英子 1-56-2

有本智恵 1-22-0

○200 Free

橋爪啓子 3-18-8

山本純子 3-14-0

○400 Free

橋爪啓子 7-07-3

山本純子 6-48-5

○100 Breast

清水万里 1-38-0

○100 Back

池上英子 2-25-4

清水万里 1-34-7

○200 I.M.

高木史子 3-22-8

○400 I.M.

高木史子 7-17-5

○400 M.R.

(高木・清水・有本・山本) 6-14-1

○200 Relay

(清水・有本・高木・山本) 2-25-8 6位

○400 Relay

(清水・有本・高木・山本) 5-30-4 6位

『近畿地区国立大学体育大会』 8月28・29日 於 六甲台プール

(男子)

○ 100 Free

杉山和弘 予選 59-5(大会新)  
決勝 1-00-0 2位

中尾 稔 1-06-2

土井和幸 1-15-9

○ 200 Free

中尾 稔 2-31-2 3位

土井和幸 3-00-2

○ 400 Free

上田剛弘 5-14-3 3位

養谷祐司 7-40-0

○ 800 Free

亀井尚之 12-39-3

上田剛弘 11-46-7

土井祐二 13-51-3

○ 100 Breast

慈幸弘樹 1-15-3 3位

森鼻隆夫 1-31-9

木下修一 1-26-6

○ 200 Breast

平石 康 2-46-4 1位

木下修一 3-07-5

芝 暢彦 3-11-3

○ 100 Fly

山本 隆 1-08-5 3位

亀井尚之 1-45-4

油谷隆司 1-31-5

○ 200 Fly

山本 隆 2-43-8 3位

油谷隆司 3-57-1

○ 100 Back

杉山和弘 1-09-3 1位  
(大会新・神大新)

酒井正人 1-13-4 3位

館谷彰司 1-29-9

○ 200 Back

酒井正人 2-37-3 1位

館谷彰司 3-21-0

○ 200 I.M.

慈幸弘樹 2-33-0 3位  
(大会新)

芝 暢彦 3-10-0

○ 400 M.R.

(酒井・後藤・山本・杉山) 4-49-4 1位

○ 200 Relay

(中尾・山本・酒井・杉山) 1-51-2 1位  
(神大新)

○ 800 Relay

(杉山・平石・上田・山本) 9-25-8 1位  
(神大新)

総合

1位 神戸大学 75点

2位 大阪大学 67点

3位 京都大学 62点

4位 滋賀大学 36点

5位 奈良教育大学 36点

6位 大阪教育大学 15点

『近畿地区国立大学体育大会』 8月28・29日 於 六甲台プール

(女子)

○ 50 Free

清水万里 34-3 3位

栗野正子 36-1 6位

山本純子 39-8

○ 100 Free

有本智恵 1-19-6 5位

橋爪啓子 1-25-8 6位

山本純子 1-27-9

○ 100 Breast

橋爪啓子 1-50-3 5位

坂井久子 1-56-9

○ 200 Breast

坂井久子 4-08-7 6位

○ 50 Fly

高木史子 40-4 2位

栗野正子 45-5

○ 100 Fly

有本智恵 1-25-6 1位

○ 50 Back

松本克江 47-4

池上英子 1-05-8

○ 100 Back

松本克江 1-45-0 6位

池上英子 2-20-1

○ 200 I.M.

清水万里 3-09-7 3位

高木史子 3-20-2 6位

○ 200 M.R.

(高木・清水・有本・栗野) 2-38-8 2位

○ 200 Relay

(栗野・高木・有本・清水) 2-22-2 3位

○ 400 Relay

(高木・山本・有本・清水) 5-27-0 3位

3- 総合

1位 大阪教育大学

2位 奈良教育大学

3位 神戸大学

# 現役部員ベスト記録一覧

1977年9月現在

・は十傑に入っている記録を示す。

男 子

種目	氏名	学年	100m	200m	400m	800m
Free	慈 幸 弘 樹	3	1-04-0*	2-25-9*	5-21-0*	
	中 尾 稔	3	1-08-4	2-36-9	5-50-6	
	杉 山 和 弘	3	59-5*	2-14-0*	4-55-2*	10-46-1*
	土 井 祐 二	3	1-19-0	2-52-0	6-01-6	12-48-8
	上 田 剛 弘	2	1-05-4	2-29-5	5-14-3*	11-46-2
	亀 井 尚 之	2	1-11-5		5-57-2	12-39-3
	土 井 和 幸	2	1-15-8	3-00-2		
	久保田 純 生	2	1-17-0			
	菱 谷 祐 司	2	1-27-0		7-40-0	
	山 本 隆	2		2-21-5*		
Brest	慈 幸 弘 樹	3	1-15-3*	2-52-7*		
	芝 暢 彦	2	1-27-0	3-11-3		
	森 鼻 隆 夫	2	1-30-9	3-30-0		
Butterfly	慈 幸 弘 樹	3	1-11-1*			
	油 谷 隆 司	3	1-30-6	3-47-9		
	杉 山 和 弘	3	1-09-6*			
	山 本 隆	2	1-08-5*	2-43-8*		
Back	慈 幸 弘 樹	3		2-57-7*		
	杉 山 和 弘	3	1-09-3*	2-40-1*		
	館 谷 彰 司	3	1-35-2	3-27-1		
I.M.	慈 幸 弘 樹	3			2-33-0*	5-44-2*
	芝 暢 彦	2			3-10-0	7-12-6
	山 本 隆	2				5-53-0*

# 女 子

種 目	氏 名	学 年	50 m	100 m	200 m	400 m
Free	有本 智 恵	4	33-4	1-15-3	2-53-8	6-18-0
	清水 万 里	3	33-8	1-16-2		
	松本 克 江	3		1-40-0		
	橋爪 啓 子	2	40-0	1-29-3	3-18-8	7-04-8
Brest	橋爪 啓 子	2		1-50-3		
Butter fly	有本 智 恵	4	36-1	1-28-8	3-26-9	
	清水 万 里	3		1-42-3		
Back	清水 万 里	3	43-0	1-32-2	3-11-3	
	松本 克 江	3	48-1	1-45-0		
I.M.	清水 万 里	3			3-09-7	

30	0-50-0	2-50	松本 克江	4
35	0-51-0	3-00	清水 万里	3
40	0-52-0	3-10	橋爪 啓子	2
45	0-53-0	3-20	有本 智恵	4
50	0-54-0	3-30	松本 克江	3
55	0-55-0	3-40	清水 万里	3
60	0-56-0	3-50	橋爪 啓子	2
65	0-57-0	4-00	有本 智恵	4
70	0-58-0	4-10	松本 克江	3
75	0-59-0	4-20	清水 万里	3
80	0-60-0	4-30	橋爪 啓子	2

85	0-61-0	4-40	有本 智恵	4
90	0-62-0	4-50	松本 克江	3
95	0-63-0	5-00	清水 万里	3
100	0-64-0	5-10	橋爪 啓子	2
105	0-65-0	5-20	有本 智恵	4
110	0-66-0	5-30	松本 克江	3
115	0-67-0	5-40	清水 万里	3
120	0-68-0	5-50	橋爪 啓子	2
125	0-69-0	6-00	有本 智恵	4
130	0-70-0	6-10	松本 克江	3
135	0-71-0	6-20	清水 万里	3
140	0-72-0	6-30	橋爪 啓子	2

# 歴代 10 傑表 (最新版)

昭和58年8月現在

一〇〇〇m自由型

1.	浜川広海	学22	58-8	S.26
2.	杉山和弘	新28	59-5	S.52
3.	村田邦夫	新26	1-00-7	S.51
4.	丸末一之	新25	1-02-8	S.51
5.	佐敷定雄	新22	1-03-1	S.47
6.	中西康之	新25	1-03-7	S.50
7.	平石康	新26	1-03-8	S.52
8.	慈幸弘樹	新28	1-04-0	S.52
9.	大林良和	新26	1-04-0	S.52
10.	木戸功	新28	1-04-4	S.52

二〇〇〇m自由型

1.	浜川広海	学22	2-09-0	S.26
2.	杉山和弘	新28	2-14-0	S.52
3.	村田邦夫	新26	2-17-5	S.51
4.	丸末一之	新25	2-19-9	S.51
5.	山本隆	新29	2-21-5	S.52
6.	佐敷定雄	新22	2-23-0	S.48
7.	大林良和	新26	2-23-1	S.52
8.	木村多加緒	新18	2-24-0	S.43
9.	中西康之	新25	2-25-0	S.49
10.	慈幸弘樹	新28	2-25-9	S.52

四〇〇〇m自由型

1.	杉山和弘	新28	4-55-2	S.52
2.	丸末一之	新25	5-01-5	S.51
3.	大林良和	新26	5-08-9	S.49
4.	村田邦夫	新26	5-12-2	S.51
5.	上田剛弘	新29	5-14-3	S.52
6.	玉置明	新18	5-14-7	S.43
7.	高岡保宏	新10	5-18-1	S.34
8.	平石康	新26	5-20-3	S.52
9.	慈幸弘樹	新28	5-21-0	S.51
10.	中西康之	新25	5-21-5	S.48

## 八〇〇 m 自由型

1.	丸末一之	新25	10-36-3	S.51
2.	杉山和弘	新28	10-46-1	S.52
3.	大林良和	新26	10-48-4	S.49
4.	大玉置明	新18	11-00-4	S.43
5.	木村多加緒	新18	11-04-1	S.42
6.	浅間啓介	新10	11-12-2	S.36
7.	高岡保宏	新10	11-20-1	S.34
8.	佐敷定雄	新22	11-20-4	S.48
9.	中西康之	新25	11-24-0	S.48
10.	天野孝司	新24	11-27-2	S.47

## 一〇〇 m 平泳

1.	鈴木俊彦	新17	1-14-3	S.42
2.	慈幸弘樹	新28	1-15-3	S.52
3.	平石康	新26	1-17-5	S.51
4.	菊田修三	新18	1-19-0	S.44
5.	後藤信人	新26	1-19-7	S.52
6.	佐藤弘之	新25	1-20-8	S.51
7.	酒井正人	新26	1-21-5	S.52
8.	安茂弘	新11	1-22-6	S.38
9.	栗原稔		1-22-8	S.40
9.	渡辺義治	新23	1-22-8	S.47
9.	小林正文	新25	1-22-8	S.51

## 二〇〇 m 平泳

1.	平石康	新26	2-45-1	S.52
2.	鈴木俊彦	新17	2-45-5	S.43
3.	慈幸弘樹	新28	2-52-7	S.52
4.	後藤信人	新26	2-55-0	S.52
5.	小山賢之助	学1	2-55-5	S.4
6.	阿部洋三	新15	2-55-5	S.39
7.	菊田修三	新18	2-55-6	S.44
8.	小林正文	新25	2-59-3	S.51
9.	岩切博	新19	2-59-9	S.45
10.	大崎		3-00-2	S.39

## 一〇〇m背泳

1.	杉山和弘	新28	1-09-3	S.52
2.	田五郎	新3	1-11-8	S.27
3.	酒井正人	新26	1-12-5	S.51
4.	木村多加緒	新18	1-12-7	S.43
5.	井上隆史	新10	1-14-0	S.36
6.	玉木喜代明	新19	1-14-6	S.44
7.	岡村司	新7	1-16-0	S.33
8.	印南修三	新22	1-16-7	S.46
9.	岡見晴児	新6	1-17-0	S.31
10.	部坂克夫		1-17-2	S.12

## 二〇〇m背泳

1.	木村多加緒	新18	2-34-8	S.43
2.	酒井正人	新26	2-35-2	S.52
3.	杉山和弘	新28	2-40-1	S.52
4.	玉木喜代明	新19	2-44-3	S.44
5.	印南修三	新22	2-47-7	S.46
6.	瓜生誠二郎	新23	2-49-4	S.47
7.	木下雅浩	新14	2-52-2	S.44
8.	福田大式		2-53-8	S.44
9.	慈幸弘樹	新28	2-55-0	S.52
10.	佐藤弘之	新25	2-56-8	S.48

## 一〇〇m蝶泳

1.	佐敷定雄	新22	1-05-2	S.46
2.	山本隆	新29	1-08-5	S.52
3.	大橋進	新19	1-09-1	S.44
4.	杉山和弘	新28	1-09-6	S.52
5.	阿部洋三	新15	1-10-0	S.41
6.	由佐禎男	新15	1-11-0	S.41
7.	慈幸弘樹	新28	1-11-1	S.51
8.	村田邦夫	新26	1-13-2	S.52
9.	佐藤弘之	新25	1-13-7	S.49
10.	熊岡禎二	新17	1-15-9	S.44

二 〇 〇 m 蝶 泳	1.	佐敷定雄	新22	2-34-5	S.48
	2.	阿部洋三	新15	2-40-1	S.41
	3.	山本隆	新29	2-48-8	S.52
	4.	大橋進	新19	2-48-1	S.45
	5.	養田徹	新18	2-51-6	S.44
	6.	村田邦夫	新26	2-52-5	S.51
	7.	藤森一男	新23	2-53-1	S.49
	8.	安部		2-56-1	S.38
	9.	佐藤弘之	新25	2-57-2	S.49
	10.	武政英幸	新12	2-59-5	S.38

二 〇 〇 m 個 混 泳	1.	慈幸弘樹	新28	2-33-0	S.52
	2.	平石康	新26	2-39-0	S.52
	3.	酒井正人	新26	2-41-9	S.52
	4.	鈴木俊彦	新17	2-44-1	S.42
	5.	小越信昭	新14	2-44-5	S.38
	6.	佐敷定雄	新22	2-45-6	S.48
	7.	佐藤弘之	新25	2-46-8	S.48
	8.	丸末一之	新25	2-47-5	S.50
	9.	木村多加緒	新18	2-48-6	S.43
	10.	藤森一男	新23	2-50-0	S.47

四 〇 〇 m 個 混 泳	1.	慈幸弘樹	新28	5-44-2	S.51
	2.	山本隆	新29	5-53-0	S.52
	3.	平石康	新26	5-56-2	S.51
	4.	木村多加緒	新18	5-58-2	S.43
	5.	鈴木俊彦	新17	5-59-4	S.42
	6.	酒井正人	新26	6-06-0	S.52
	7.	佐藤弘之	新25	6-15-4	S.48
	8.	沢内孝夫		6-15-8	S.42
	9.	熊岡禎二	新17	6-23-5	S.44
	10.	岩切博	新19	6-24-2	S.45

二 〇 〇 m 継 泳	1.	中尾・慈幸・山本・杉山	1-51-2	S.52
	2.	中尾・山本・酒井・杉山	1-58-5	S.52
	3.	慈幸・丸末・村田・木戸	1-55-0	S.51
	4.	丸末・佐藤・伊藤・中西	1-57-3	S.50
	5.	佐藤・大林・中西・丸末	1-57-4	S.49
	6.			
	7.			
	8.	(200mは5位まで)		
	9.			
	10.			

四 〇 〇 m 混 泳	1.	酒井・慈幸・山本・杉山	4-37-6	S.52
	2.	酒井・平石・慈幸・杉山	4-42-4	S.52
	3.	酒井・平石・杉山・村田	4-43-9	S.52
	4.	酒井・後藤・村田・杉山	4-44-7	S.52
	5.	酒井・平石・慈幸・村田	4-45-7	S.51
	6.	木村・鈴木・大橋・以西	4-48-5	S.43
	7.	玉木・菊田・大橋・山本	4-52-6	S.44
	8.	木村・鈴木・熊本・以西	4-52-9	S.41
	9.	木村・鈴木・阿部・宮部	4-53-8	S.43
	10.	瓜生・平石・佐藤・中西	4-55-3	S.49

四 〇 〇 m 継 泳	1.	杉山・慈幸・平石・村田	4-13-1	S.52
	2.	酒井・平石・慈幸・杉山	4-19-5	S.52
	3.	丸末・慈幸・酒井・村田	4-19-9	S.51
	4.	慈幸・伊藤・村田・丸末	4-21-3	S.51
	5.	以西・玉置・熊岡・木村	4-32-2	S.43
	6.	中西・藤森・佐藤・佐敷	4-33-3	S.48
	7.	丸末・長谷川・天野・佐敷	4-35-5	S.48
	8.	小林・岩切・大橋・佐敷	4-39-0	S.45
	9.	小林・藤井・大橋・佐敷	4-46-8	S.45
	10.			

八  
〇  
〇  
m  
継  
泳

1.	杉山・平石・上田・山本	9-25-8	S. 52
2.	丸末・伊藤・慈幸・村田	9-33-0	S. 51
3.	大林・慈幸・平石・杉山	9-36-2	S. 52
4.	慈幸・酒井・村田・杉山	9-44-9	S. 52
5.	丸末・酒井・慈幸・村田	9-48-3	S. 51
6.	平石・慈幸・村田・丸末	9-53-7	S. 51
7.	丸末・中西・大林・天野	9-54-9	S. 49
8.	中西・丸末・天野・佐敷	10-05-2	S. 48
9.	大林・佐藤・中西・丸末	10-08-6	S. 50
10.	大林・伊藤・中西・丸末	10-10-2	S. 50

## 昭和52年度行事報告

- 4/7(木)～4/10(日) 春季合宿(和歌山県湯浅広川温泉)
- 4/30(土) 新入歓迎コンパ(五毛会館)  
(新1年 養谷・森鼻・芝・上田・橋爪)
- 5/29(日) 古林先生追悼ビアパーティー  
凌泳総会(先号凌泳参照)

### シ ー ズ ン 突 入

- 6/5(日) 県春季水球大会(市立須磨高校)
- 6/19(日) 京阪神三大学戦(京都大学)
- 6/26(日) 関西ポロリーグ戦(大阪市大)
- 7/4(月)～7/9(土) 夏季第一次合宿(競泳のみ)(六甲台)
- 7/16(土)・7/17(日) 関西国公立戦(大阪府立大)
- 7/22(金) 水球神京戦、京大勝(六甲台)
- 7/24(日) 対市大戦(六甲台)
- 7/27(水)～7/29(金) 夏季2次合宿(競泳+水球)(六甲台)
- 7/31(日) 旧三高大戦(六甲台)
- 8/6(土)・8/7(日) 全国国公立戦(京都大学)
- 8/12(金)・8/13(土) 関西インカレ(くずは五月公園プール)
- 8/28(日)・8/29(月) 近畿地区国立大学体育大会(六甲台)

※以上は先号及び本号の戦績、観戦記、合宿記に詳細が載せてありますので、お読み下さい。

#### ○ 9/4(日) 京阪神三大学J戦

昨年に比べると全く芸のないコンパであった。昨年は芸のないのが神大だけでひじょうに恥しい思いをしたが今年は、どんぐりの背比べであったが、ややまきっているようだった。

京大、阪大の中に伝統芸、継承者がみられないのは残念である。

#### ○ 9/6(火) 関西ポロリーグJ戦(大阪市立大)

柱の4回生が抜け、2年、1年のチームで闘ったが弱さをもろに暴露4チーム中の4位に終る。来年への大きな不安を残してしまう。

○9/7(水)～9/8(木) 東京地区OB回り

伊藤(新25)、慈幸・中尾・土井(以上新28)が車で上京。集めた会費116,000円。

OBの皆様、本当にお世話になりました。帰りの高速でパンク、危うく天国へ行く所でした。

○9/15(木) 月見の宴

参加者(敬省略)

山田部長 石井(学22) 宇賀(新8) 萩原(新10) 丸山(新13)  
井上(新18) 藤森(新23) 田淵(新24) 山口(新24) 川本(新24)  
佐藤(新25) 小林(新25) 伊藤(新25) 山田(新25) 浜西(新25)  
と現役部員多数。

今年はカップを並べて、充実したシーズンを振り返り、酒の進み具合も早かったようだ。

○10/15 関西地区OB回り

男子現役部員多数で回ったが、東京に比べて集金額は半分以下とふるわなかった。

OBの皆様本当にお世話になりました。

○10月末 学内ソフトボール大会、3位

家本(新22)の年齢を越えた気力で3位にくい込む。

賞品、ビール4本。家本さん、ご苦労様。

○12/16(金) 追出しコンパ(エクラン)

色々ありました1年も終りに近づき忘年会を兼ねて、追出しコンパを開く。

4回生12名。本当に御苦労様。4回生より記念品テント、1,2,3回生よりトロフィー贈呈。

○1/8(日) 初泳ぎ(かるもプール)

OBより、前田(学11)さん、石井(学22)さん、現役部員13名。

OBより「手紙の書き方」の講義あり、現役部員一同真険に聞く、大学の講義よりも皆数倍まじめでありました。特にOBとの連絡を行う私にとっては、とても勉強になりました。

○2/19(日) 凌雪会(神鍋スキー場)

残念ながら現役部員は試験のため1人も参加できませんでした。

詳細は凌雪会報告をお読み下さい。

○2月末 凌泳・原稿〆切

来年もよろしくお願ひします。

○3/1(水) 現役部員スキー出発

後藤団長以下10数名の現役部員参加。詳細は次号凌泳に掲載予定。

○3/15(水) 陸トレ開始

さあ、頑張ろう!!

# 凌 泳 会 会 則

## 第一章 総 則

第一条（名 称）

本会は凌泳会と称する。

第二条（事務所）

本会は事務所を神戸市灘区六甲台町神戸大学に置くこととし、宛名は同大学学生課気付「凌泳会」とする。

第三条（目 的）

本会は会員相互の連絡と親睦を図ると共に、神戸大学水泳部の発展に寄与することを目的とする。

第四条（事 業）

本会は前条の目的を達成する為に左記の事業を行なう。

一、会誌「凌泳」の発行

二、会員相互の連絡

三、定例総会及び各種の親睦会合

四、神戸大学水泳部発展の爲の指導及び援助

五、その他、本会の目的を達成するに必要な事項

第五条（会則の改廃）

本会則の制定及び変更は總會の決議によって行なう。

## 第二章 会 員

第六条（会 員）

本会の会員を分けて正会員、特別会員、及び在学会員とする。

第七条（正会員）

正会員とは、次のものを云う。

国立神戸高等商業学校 国立神戸商業大学 神戸経済大学 神戸大学

以上の諸学校に於て在学中水泳部に所属したもの。

第八条（特別会員）

特別会員とは次のものを云う。

第九條（在学会員）

一、前条の諸学校で水泳部々長及び副部長であった者及び現在ある者。  
二、その他、総会の決議によって推薦した者。

在学会員とは次のものを云う。  
現在、神戸大学々生で水泳部に所属する者。

第十條（会費）

正会員は会費として年額二、五〇〇円を当会へ納入する。

四〇〇〇

ただし、セオ以上は免除  
学部3回まで

第三章 役員

第十一條（役員）

本会には左記の役員を置く。

- 会長 一名
- 副会長 二名
- 監事 若干名
- 幹事長 一名
- 本部幹事 若干名
- 支部幹事 若干名

第十二條（改選）

役員は改選は総会の決議によって行なう。

第十三條（任期）

役員は任期は一年とし再選を妨げない。

第十四條（会長）

会長は本会を代表し且つ統轄する。

第十五條（副会長）

副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はこれを代行する。

第十六條（監事）

監事は本会の会務及び会計を監査する。

第十七條（幹事長及び本部幹事）

幹事長及び本部幹事は会長、副会長を補佐し総括的会務の執行に当る。

第十八條（支部幹事）

支部幹事は各支部の事務を執行すると共に、本部の諸活動に協力する。

#### 第四章 総 会

第十九条（招 集）

第二十条（時 期）

第二十一条（議 決）

総会は少くとも二週間以前に会議の目的を明らかにした通知を以って会長がこれを招集をする。

総会は毎年五月に開催するものとし、臨時総会は必要に応じて招集する。

総会の決議は出席正会員の過半数をもって決する。

但し、当該議事につき書面をもってあらかじめ意思を表示したものは出席とみなす。

#### 第五章 会 計

第二十二条（経 理）

第二十三条（決 算）

第二十四条（期 間）

本会の経理は、会費、寄附金及びその収入によって賄う。

本会の収支決算については、会計の監査を経た上、春季総会に於て報告しその承認を受ける。

本会の会計年度は、毎年四月一日より三月三十一日までとする。

#### 第六章 雑 則

第二十五条

本会則は、昭和五十年五月十七日より発効する。

凌泳会役員名簿

会長

小山賢之助(学1)

副会長

山田常雄(学1)

監事

空席

幹事

石井義章(学22)

幹事

萩原武(新10)

會計担当幹事

長谷川健(新22)

凌泳編集幹事

堤荘祐(新12)

支部幹事

〔関東〕

小山賢之助(学1)

森孝夫(学10)

山口宗樹(学10)

〔中部〕

浜川広海(学22)

水野一彦(新8)

〔中国〕

鈴木啓介(学10)

〔四国〕

古川富貴男(学13)

大内義仁(学8)

〔九州〕

中村市治(学9)

〔関西〕

印藤勝美(学13)

京都

柳本正雄(新10)

大阪

玉置明(新18)

井上与志男(新18)

姫路

山口仁郎(新5)

凌 泳 会 々 員 名 簿

物 故 会 員

高	三	古	繁	鈴	山	山	楠	中	岡	野	加	小	多	藤
田	輪	林	益	木	下	村	原	村	本	田	納	笠	田	井
寿	喜	喜	繁	不	虎		零	聖	幸	曾		房	德	正
三	一	一	次	覆	藏	馨	一	一	一	一	茂	穂	雄	太
	郎	郎	郎	雄	藏									郎
高												高	特	特
20	20	19	19	19	18	17	17	17	17	16	16	15		

---

和	栄	片	小	鏡	土	太	川	阪	東	田	浅	中	大	大
泉	口	山	西	本	肥	田	西	本	光	川	野	村	島	谷
真	昌	四	熊	芳	駒		武	豊	武	亮		勝	親	之
弘	二	郎	雄	雄	次	清	雄	一	三	一	猛	毅	利	輔
					学	高						高		
7	6	5	3	2	26	26	26	22	22	22	21	21	21	20

---

今	中	伊	前	池	山	稲	柏	井	恩	部	新	松	村
井	島	藤	田	田	口	垣	木	上	地	坂	原	木	上
		一	礼	敷	八		慶	正	正	克	拓		秀
彰	功	郎	之	治	郎		三	幸	悟	夫	郎	勇	造
	新												学
3	1	17	14	13	12	11	11	11	10	10	9	8	7

※ ( ) は凌霜名簿の回数

## 神戸商業大学校歌 商 神

1. 商神彩なす翅をあげて  
靈杖遙に東を指せば  
靈しき果実は雲間を漏りて  
秋津島根に落つとぞ見えし  
所はここぞ菊水かおる  
湊河原の近きほとりに  
かく伝わりし天のさとしも  
人はさとらで幾年か経ぬ
2. 神の息吹のこもりて成りし  
靈果いかで地に朽つべき  
豊栄のぼる朝日のかげに  
八州の外の潮風吹きて  
いつしか催す気運に乗じ  
わが学校ぞ世に生まれたる  
眠る 商界夢さますべき  
使命は天の授けし所
3. 此処摩耶の山六甲の峰  
連り亘る山ぶところに  
数の若鷹はぐくまれ居て  
静かにうかぶ雲の行きかひ  
朝妙なる琴のひびきは  
敏馬の浜に松を吹く風  
夕やさしき舞の姿は  
茅渚の浦曲に白帆行く影
4. 希望に満てる春の潮の  
寄せてはかえず清き渚や  
熱誠もゆる夏の盛りを  
いたわる風の葦合の里  
須磨や明石をかけて照るらん  
月には物のあわれをぞ知る  
冬は腐たる後に嵐  
奔馬空行く勢示す
5. 天れ山水の秀麗の気は  
偉人傑士を起たしむとかや  
天の使命を胸に収めて  
清き自然に抱かれながら  
筋骨鍛え智徳を研く  
切磋琢磨の三年の春秋  
養い得たるうつ勃の意気  
抱負を語れや千余のおのこ
6. 金歌無欠の三千余年  
かがやく光は劍の誓  
心はおなじ大和男子の  
我等は牙を執って起ちなん  
日出ずる旗を高くかざして  
日入らぬ国と手を携えて  
目ざす平和の戦の場に  
匂う御国の花ぞ咲かせむ
7. 雄飛の時ぞとねぐら離れて  
野に立出ずる蒼涼幾羽  
爪も研ぎぬ力も足りぬ  
尋にも余るつばさを張れば  
枝の百鳥皆おそれ伏す  
扶揺万里の風を起して  
おのが向々東に西に  
雲に突き入る勢見るや

神戸商業大学校歌 商 神

しょうしん あやなす つばさをあげて  
 れいじゅう はるかに ひがしをさせば  
 くしき このみは くもまを もりて  
 あきつー しまねに おつとぞ みえしと  
 こーろは ここぞ きくすいか おるみ  
 っなとが わらのち かきほとりに  
 かくつ たわりし あめのさとし も  
 ひとは さとらで いくとせかへぬ

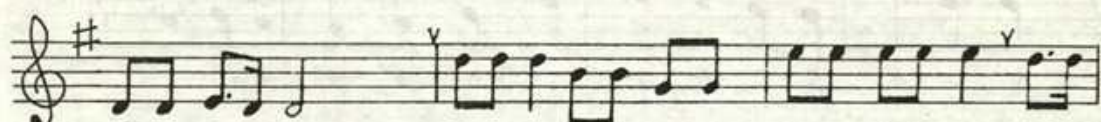
# 水 泳 部 歌

作詩 古林 喜楽

作曲 山田 貴彦



1. ま や ろ っ こ う に い だ か れ て こ こ む こ が お か の  
 2. フ リ ー プ レ ス ト バ タ フ ラ イ パ ッ ク リ レ ー に  
 3. あ あ な つ か し の す い え い ぶ ろ っ こ う だ い の -



み ず き よ し ち め の う ら わ を み お ろ し て し ぶ  
 ボ ロ ま で も ぬ り え い け ん じ の い き た か し い ざ  
 プ ー ル ベ に つ き み の え ん で - お よ ぎ や め く る



き (し ぶ き を) を あ げ る け ん だ ー ん じ  
 や (い ざ や -) - き そ わ ん り で を - ぶ し  
 な (く る な つ) つ ま っ - て い き り - た つ

一、摩耶六甲に抱かれて

ここ六甲ヶ丘の水清し  
 茅渚の浦曲を見下して  
 しぶきをあげる健男子

二、フリープレスト バタフライ

バックリレーにボロまでも  
 凌泳健児の意気高し  
 いざや競わん腕を撫し

三、ああ懐しの水泳部

六甲台のプール辺に  
 月見の宴で泳ぎ止め  
 来る夏待っていきり立つ

# 宇宙を股に

神戸大学応援歌

作詩 古林 喜楽

作曲 竹内 平吉

勇壮に元気よく

まやろっこうに いだかれーて  
 みどりのそのに はなふりかゝる  
 ここおかのべのわこうどが  
 もゆるおもいを むねにひーめ  
 まなぶやゆうひのときをきし

一、

摩耶六甲に抱かれて  
 緑の園に花ふりかかる  
 ここ丘の上の若人が  
 燃ゆる思いを胸に秘め  
 学ぶや雄飛の時を期し

二、

ヒマラヤ杉を背に受けて  
 茅渚の浦ゆ紀伊の山  
 右手に四国よ淡路島  
 左手にうかぶ金剛山  
 大らかにぞ抱負わく

三、

燃ゆる紅葉たそがれて  
 宵闇せまる山路を踏めば  
 真理に挑む若鷹が  
 ネオンの海を見おろして  
 いよよ決意をかたむ哉

四、

身に沁みわたる峯おろし  
 冬来りなば春近し  
 巢立つ晴れの日時せまる  
 翼ひろげて悠然と  
 宇宙を股に羽ばたかん

# 栄光は常にわれらに

神戸大学応援歌

作詞 数島富四雄  
作曲 黒田 浩一  
編曲 土橋 康宏

たて や たー て われらがえらばれ  
しせんし ぼくのたかき ほまれにかけて た  
だ めさす しゅうりのかむり  
ふるえいざ ふるーえ ちからのかぎり かがやかんえい  
こうはつーね に われらーにー  
こうべこうべこうべ われらがこうべだいがーく ゆけ

一、 起てや起て  
われらが選ばれし戦士  
母校の高き誓にかけて  
ただ目指す勝利の栄冠  
振るえいざ振るえ力の限り  
輝かん栄光は常にわれらに  
神戸 神戸 神戸  
われらが 神戸大学

二、 征けや征け  
われらが選ばれし戦士  
若人の大い誇を秘めて  
胸深く制覇の誓  
振るえいざ振るえ雄々しく強く  
輝かん栄光は常にわれらに  
神戸 神戸 神戸  
われらが 神戸大学

三、 聞けや聞け  
われらが選ばれし戦士  
青春の若き血潮たぎらせ  
相和するかちどきの歌  
振るえいざ振るえ意気いや高く  
輝かん栄光は常にわれらに  
神戸 神戸 神戸  
われらが 神戸大学